

(II) 次に顔も物に譬へて考へ行きます。すると遂に彼女は土瓶に目鼻である事に思ひ當る。

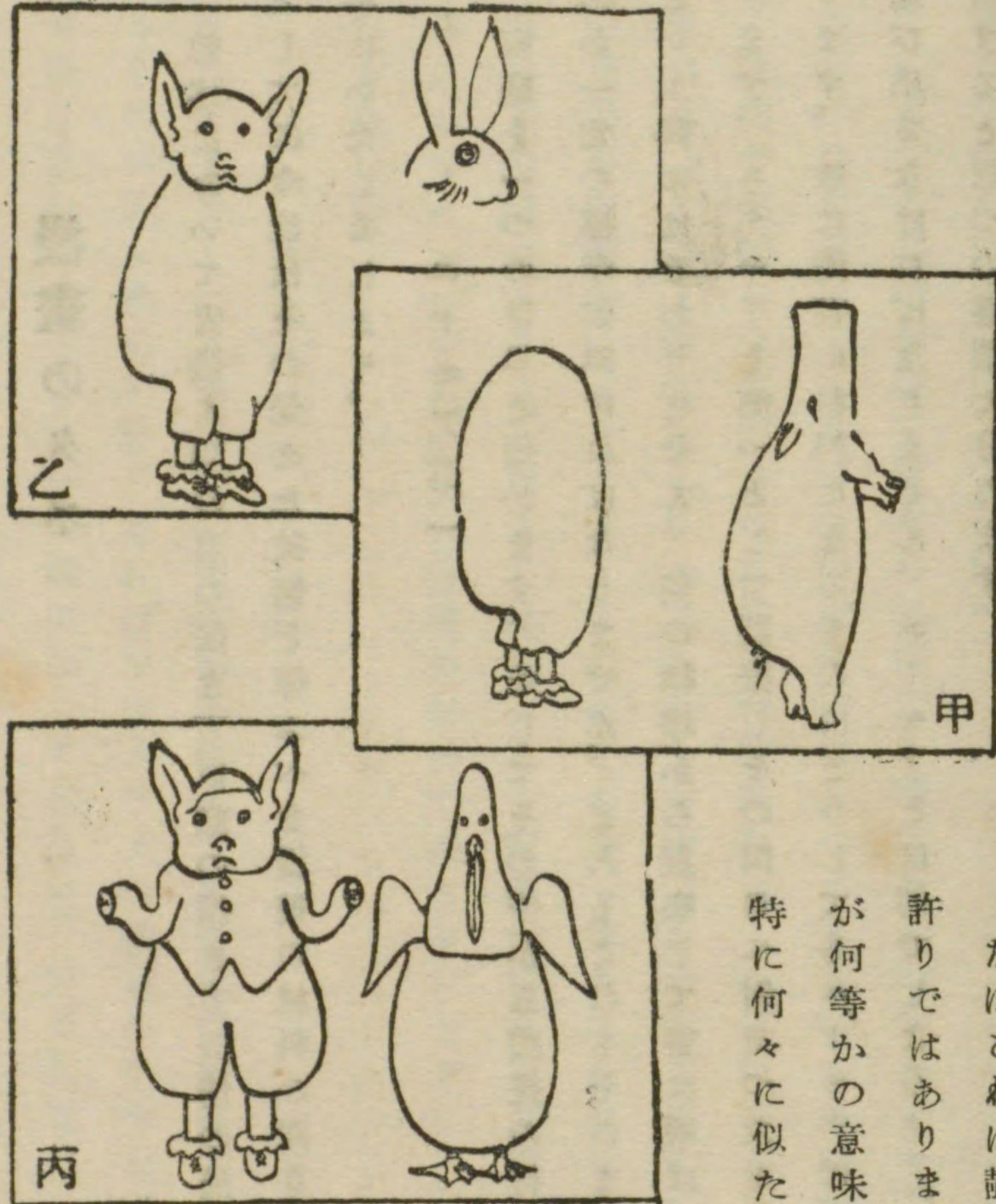
(III) 手は丸くて平たくてコーヒのサジのやうだと思ひ當るこれで主婦のアルファベ

(ロ) 主婦のアルファベット
 本當を申しますと前の主人の描き方の例に使つたやうな特徴の多い人間は世間に至つて少いのであります。だから素人方には自分の家の主人を見ても中々特徴を見出しにくからうと存じます。よつてこの主婦をアルファベットにする項目より以下にわたり普通に見える人間をも特徴化す秘傳をそろく御紹介いたします。

擬物法

先づ諸君はうちの主婦を見てこの女は物に譬へたら何に似てるだらうかと考へるのですが。然し直覺から見ると人間には誰でも何處か動物の俤が遺つて居るものです。で動物になぞらへて人を觀察すると仲々よく特徴の採れるものです。實際の描き方についてこの方法の例を示しましょう。何か似てるくと段々思ひ當つて行つて、

(I) 結局この女の頭の髪が大きくて足の方が削げてるところは卓上電燈の形に似てる。そこでその心持ちで彼女の輪圖を取る。



なほこれは静止の時の状態
許りではありません。その人
が何等かの意味で活動する時
特に何々に似た形をする譬に
認めること
が多くあり
ます。
性格を捉
へて形に現
はすにもこ
の譬へ方を
腹へ入れて
置くと大變
便利です。

ットが出来ました。

IV) これも横縦自由に描けるやうに習つて置く。

(ハ) 子供のアルファベット

擬獸法

人間が猿から進化したといふダウキンの説は可成り反對論もあります。しかし今しばらくこの論を是認して漫畫に使用すれば例へばこゝに一人の子供がある。その子供は、

(甲) 身體は洋服のズボンがダブ／＼で子豚を豎に立てたやうだ。

(乙) 顔は可愛らしく耳が長くて兎に似てる。

(丙) 手は寒がりて上衣の袖口へ縮めるところは丁度ペンギン鳥の翼だ。

かうして子供の特徴が採れました。この他茄子鼻や南瓜頭等の八百屋ものに譬へ得られる人もありましようし、三ヶ月眉毛花びらの唇、天地自然に譬へて特徴が発見される人もありましよう。動物なら動物づくしと限つて譬へ切らずとも各種各様のものから自由に譬へを持つて來てよろしいのです。

漫畫のタネ

前述において大體人間の形の描き方、似顔の描き方、表情の描き方を覺えたとして、擬今度はその覺えた技倆を揮ふべき漫畫の材料の採り方を説明する事にいたしましょう。

ユーモア第一

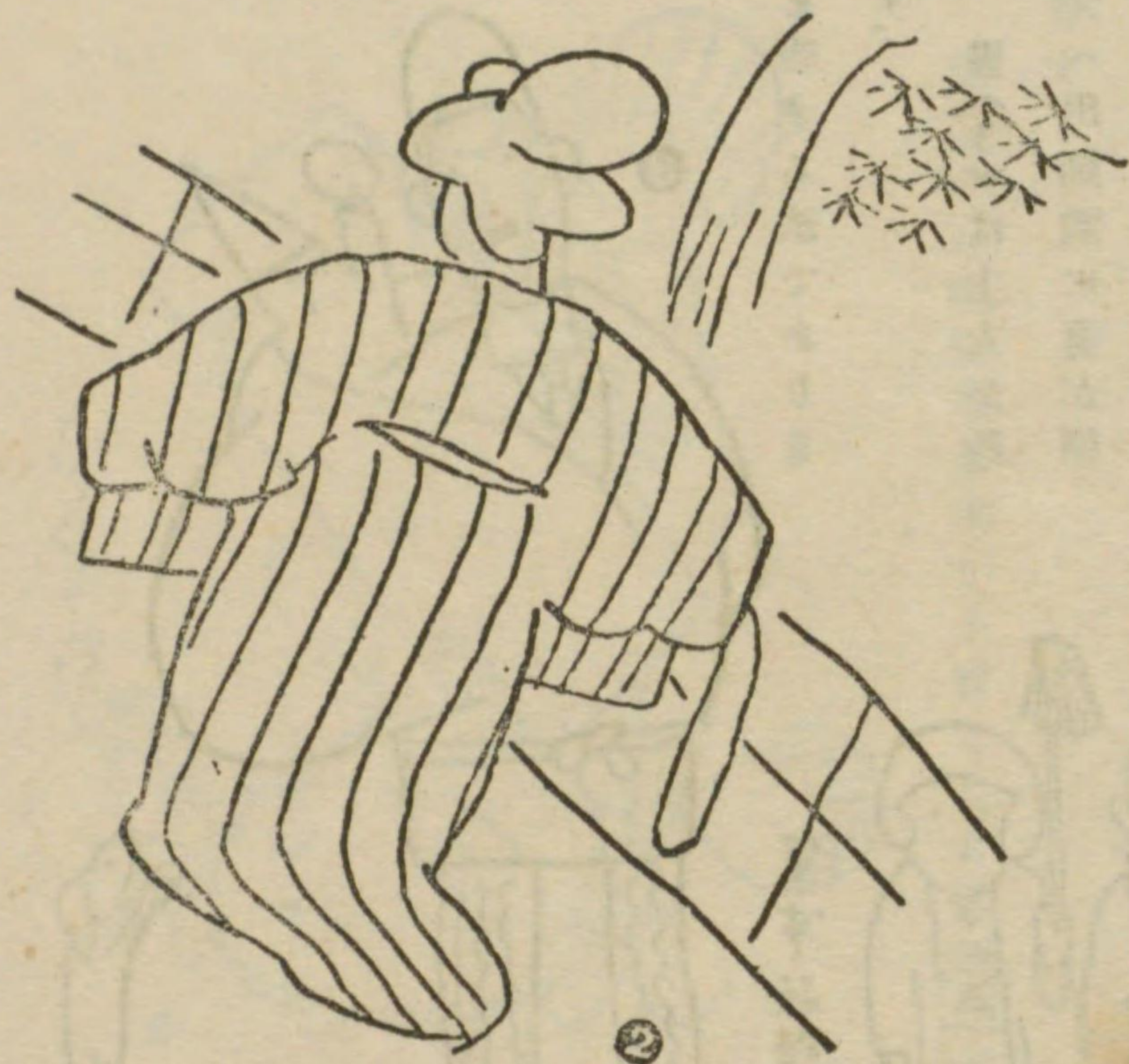
家庭を一つの世界と致します。そしてその中から漫畫の材料を漁るには何か一定の標準が無ければなりません。どれもこれもそのまま漫畫になるといふ譯にはまわりません。美の標準から觀察して畫に現はせば本畫であります。ユーモアを第一として觀察しその筒口に射當つたものは漫畫であります。故に漫畫の材料になるものはどうしてもユーモアによつてこれを選び出さなければなりません。ユーモアとは何でしょう？これを更に分析すると四つの感情に分れます。

愛、可笑味、皮肉(或は諷刺)、眞理、

この四つの感情が搗き混ぜられ弾力を帯びたものがユーモアであります。この四つの元素はユーモアの中に平等に入つてるといふわけではありません。皮肉や諷刺の分量が多ければ辛辣深酷なユーモアになりますし、可笑味と愛が多いものは輕快なユーモアになります。この話を長くして行くと漫畫心理學の面倒臭いクロスワードのわくの中へ落ち込んでしまひますから、詮索はこの邊にとどめ、みなさんは少くとも家庭の世界を見廻してユーモアを感じたもの、これ天の與ふる漫畫の材料であるとしてどしどしお描きなさるがよろしい。

ユーモアの感じ方

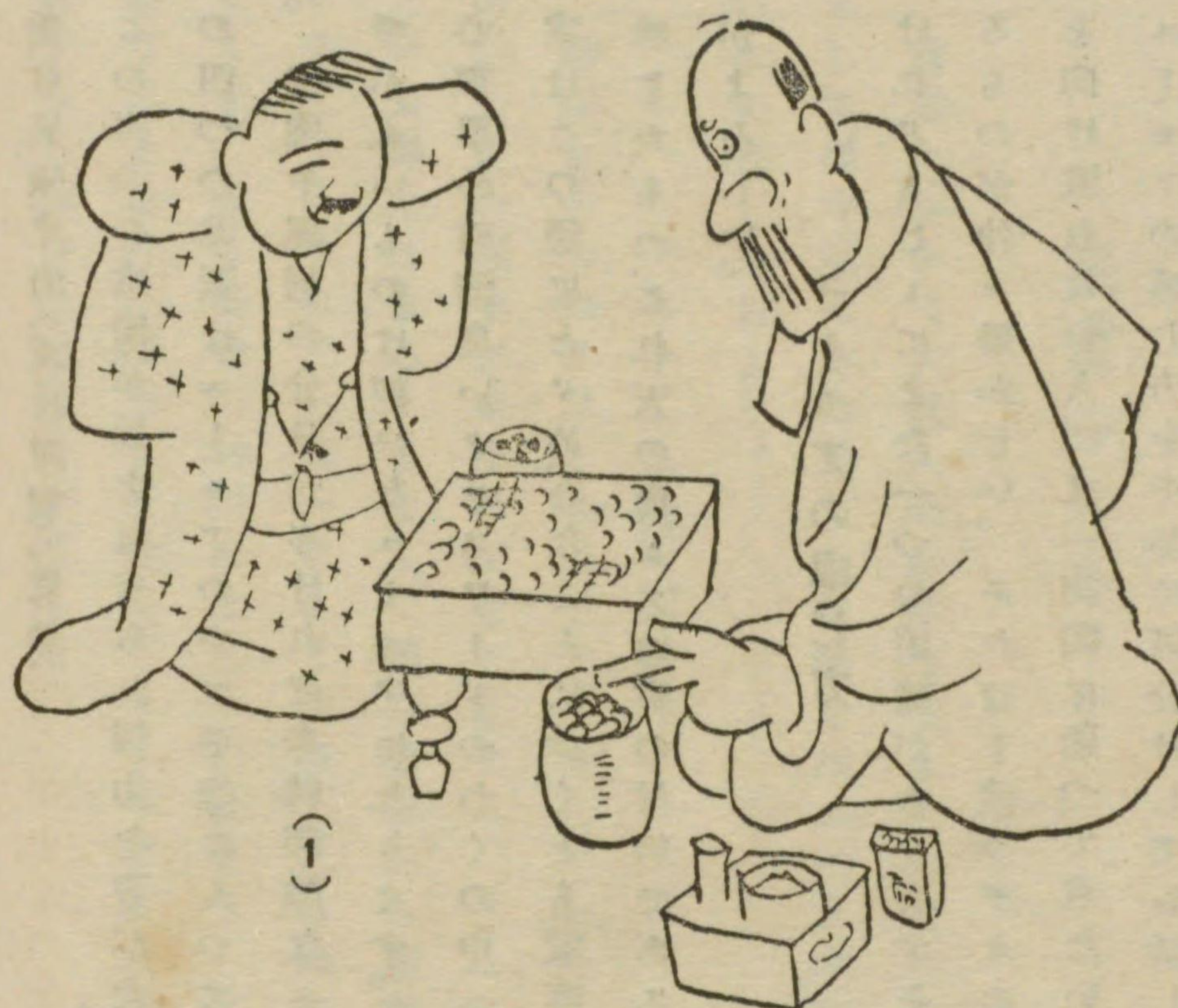
けれどもこゝにまた一つの困難があります、それはこのユーモアの感じ方なるものが仲々難かしい。それは丁度ラヂオの鑽石のやうなもので感情の針を向け慣れない人には一向頭に通つて來ない。で、これ等の人々の爲に更にユーモアの感じ方を平易に區分けてお話しする事に致します。



と間違へて、しばく碁石入れの中へ巻煙草の火をつけに手をやる。即ち人の失敗を發見して畫にするのであります。

畫(2)は脊の低い妻が温泉宿の借浴衣を着たが男物の上に大きくて身に合はない。その缺點のところを見つけたのであります。

注意すべきはこのアラ探し法では、まゝ人身攻撃にわたり、描かれたものゝいやがるやうな缺點を摘出する事がありますから、いくらいゝ材料だと思つてもそれを漫

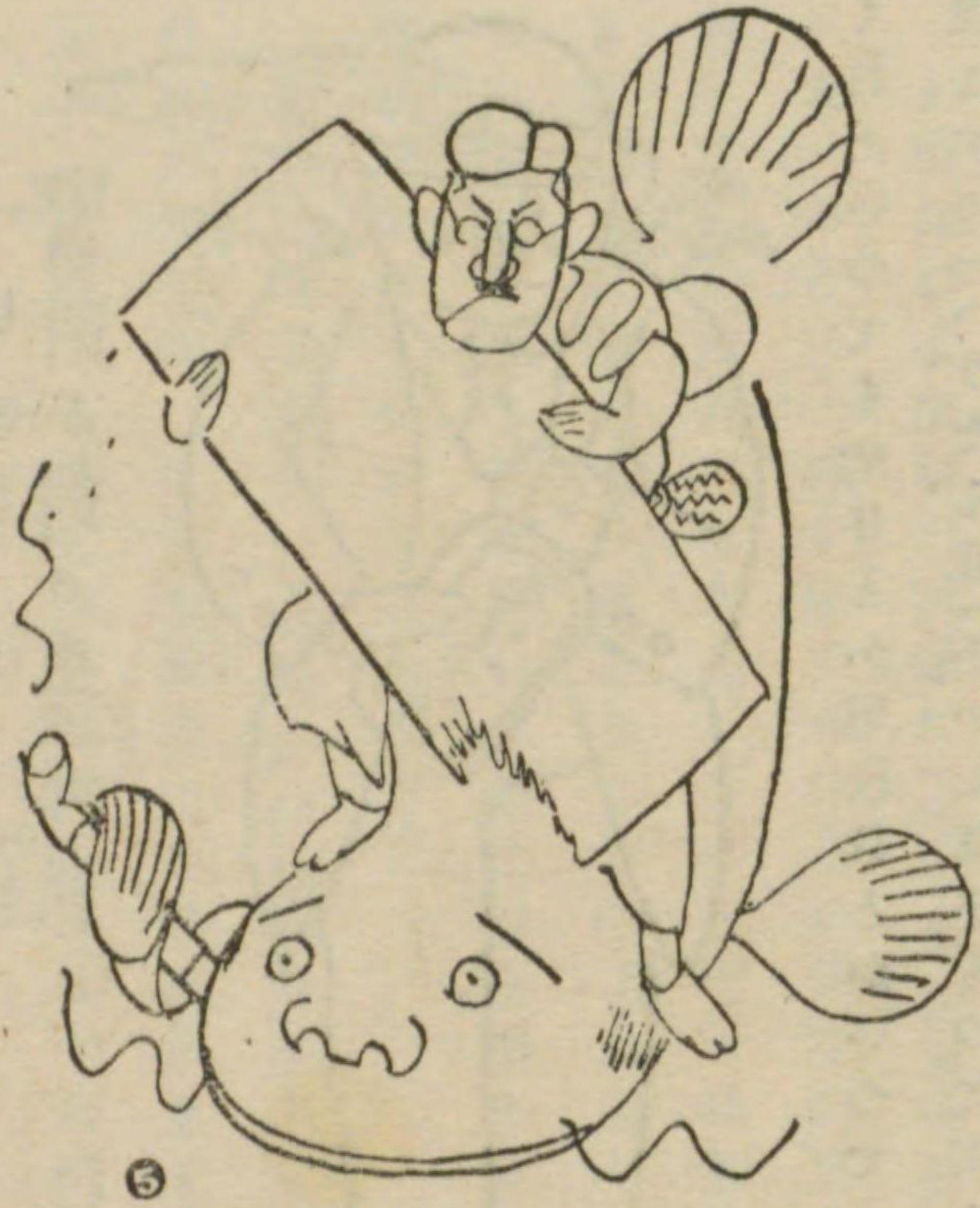


これは一番原始的で簡単なユーモアの發見術であります。子供や野蠻人が喜ぶユーモアであります。

人の失敗や、手落ちや、缺點や、無智や、當惑等を發見して畫に寫すのであります。

畫(1)は主人と客と碁を打つてゐるところを側面から觀察すると主人は碁盤の面に夢中になつてゐるので手の方へは注意が行き届かない爲め煙草盆と碁石入れ

アラ探し



ゐるところであります。洋服を着て事務家のなりをしてゐるのに子供を負つてゐるところが矛盾であります。そこにユーモアが感じられるのであります。

畫(4)は晩餐後、子供が上官となり、兩親が兵卒となり、軍事教練を施されてゐるところであります。

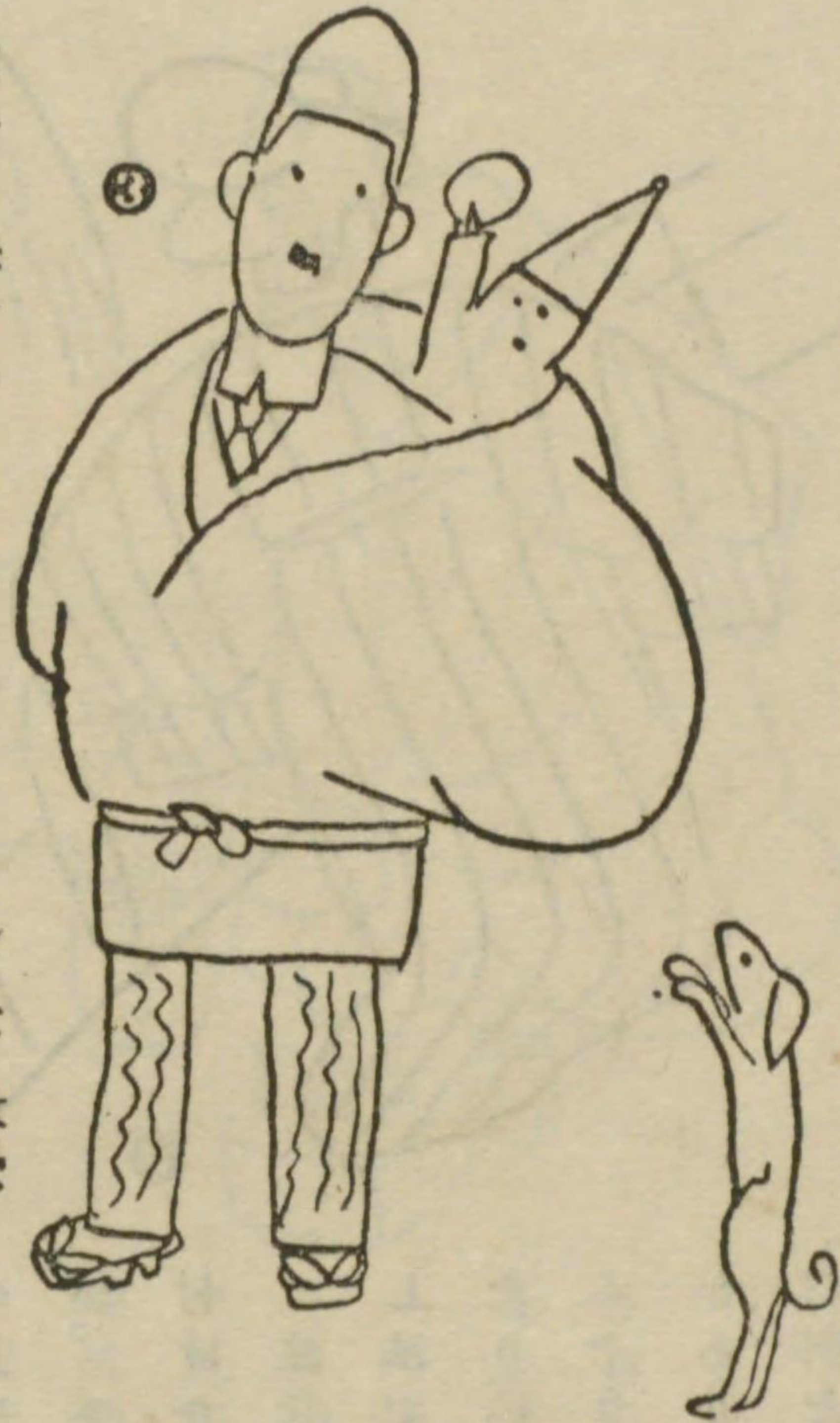
これまた親と子の身分が矛盾し、男と女の兩親が兵卒になるところに矛盾があります。その矛盾がユーモアを誘ひ起すのであります。

比喩法

これはものによそへてユーモアを感じる方法であります。昔からの習慣で一つの喩へな

を感じる法であります。

畫(3)は主人が勤先へ出勤前に妻が朝飯の支度をする間、子供を負つて守をして

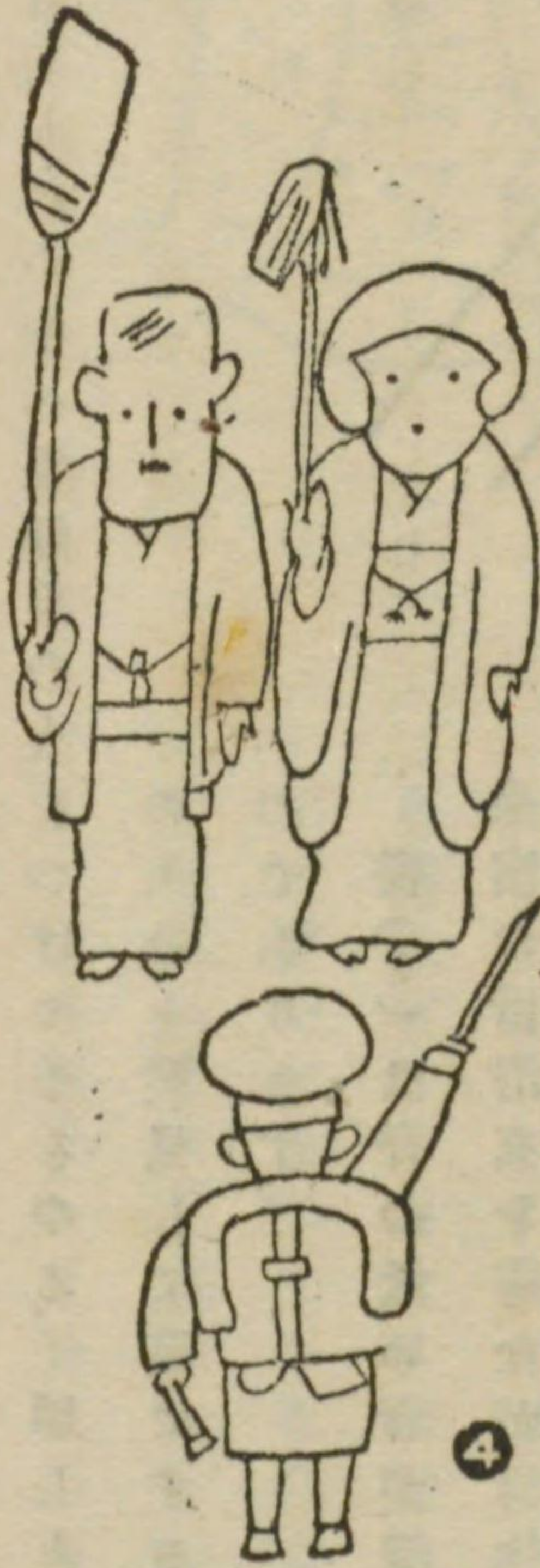


軍事教練

畫にして描かれた當人が苦笑する以上に深酷なのは慎むべきであると思ひます。

矛盾法

これは家庭の事物で矛盾してゐるものを發見してユーモア



醫師山師の生へぬ月



り成語なりが出来てを
ります。それに眼前の
事實を當嵌めてユーモ
アを感じるのでありま
す。

畫(5)は因業な家主
があつて借家の雨戸の
腐れをいくらなほして

くれといつても明日とか明後日とかいつて一向要領を得ない。これを描き
現はすに『へうたん鯰』といふ諺をもつて来る。押へ手が借家主の主人であ
つてぬらりくらりの鯰が家主の顔である。かくてへうたんを腐つた雨戸に
します。即ち喩へるところにユーモアがあります。

畫(6)はこゝに毛生へ藥を發明した醫者があるとする。どんな禿頭でも
一つけで總生へだなどと吹聴してゐる。然し發明者自身の頭はテカテカの禿

頭であります。そこでこれを比喩法にして彌次つたのです。

即ち『石山の秋の月』といふ成語があるのに喩へて『醫師山師の生へぬ月』
そして醫者の禿頭の邊に雲を飛ばせ肩のあたりに薄など描きます。

説明法

女學校の家政科の試験に『理想の住宅』を生徒達に考案させた事がありま
した。みなく頭を絞つて好みの住宅の見取り圖を描いて出した中に化粧
部屋はある、更衣室はある、ダンスルームはある、自動車の車庫はあるして善美
を盡した設備のものがありません。先生大に感心しこのプランに對してす
ぐに満點を與へやうとしたが念のためもう一度見直すとこの住宅には不淨
場が一ヶ所もついて無かつた。

この不淨場のない『理想の住宅』はこれを考へた人に別段その意志は無い
のだが頗る濼い皮肉な漫畫なのであります。夢にばかりあこがれて現實を
忘れる女學生氣質を何の技巧も使はず單的に表現してあります。

何の細工もせずその物その仕組みを説明するだけでユーモアを感じさせ

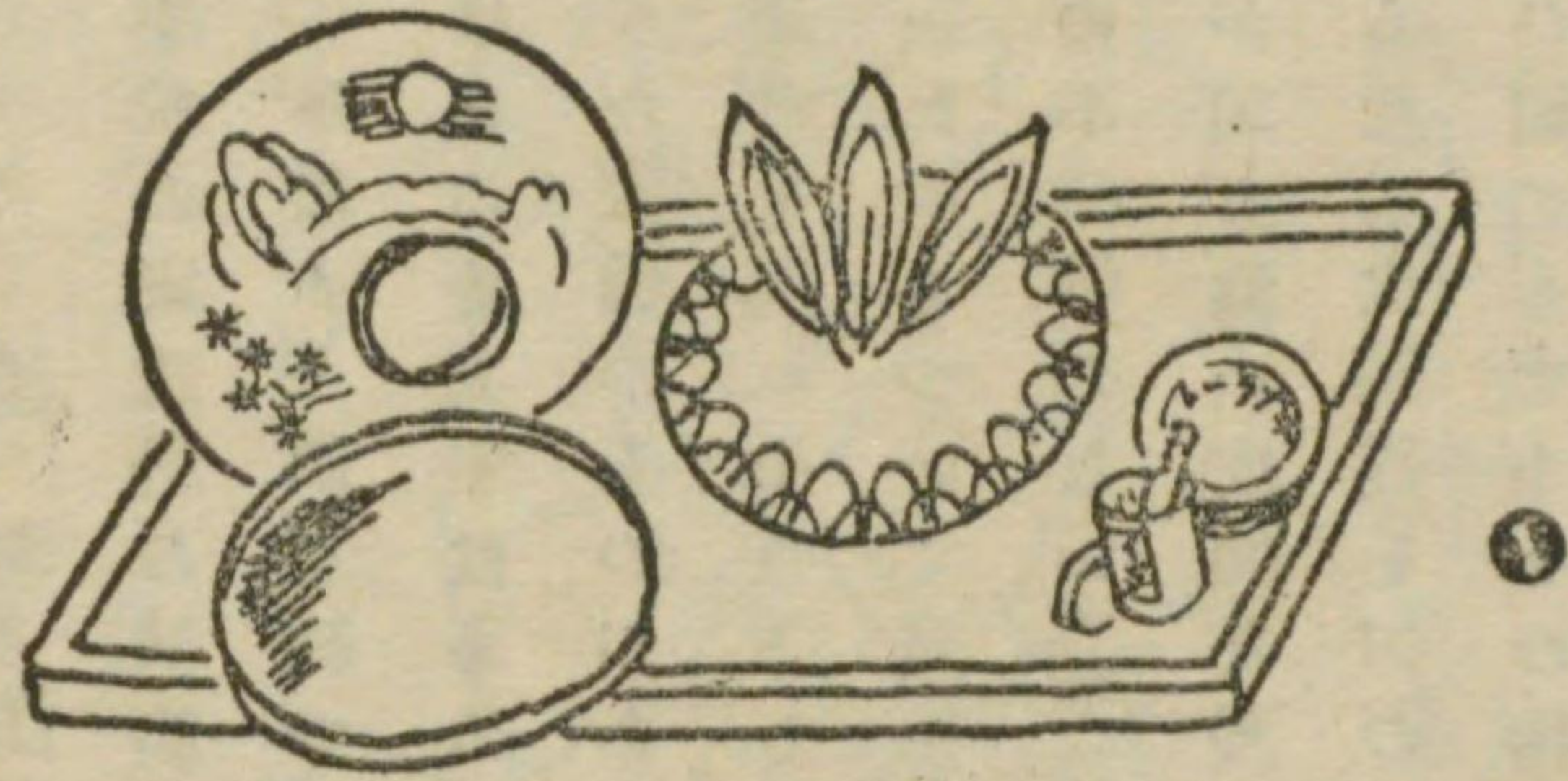


この方法は外形に表れない心理を透視して畫に描き現しそこにユーモアを感じさせる方法であります。文化が進むに従つてラヂオだの映畫だの前人未發の方法が発見されてまゐりました。それだけ世の中の幅や深さが多くなつた譯であります。従つてそれを受感するわれ／＼の感覺なるものも複雑にならされて來てゐるに違ひありません。新聞記者は第六感を備へてゐると申しますが鐵道馬車有線電信時代から見ると今の人全體は第七感も第八感も備へてゐるでしょう。これに照應する藝術がいはゆる表現派であつて形と心の交錯を透視して描寫するに努力してをります。漫畫にもこの傾向が影響し獨のグロツスなぞいふ世界的の漫畫家は随分この方法に潛入して

たゞけでユーモアを感じさせるのであります。

透視法

である揭示と見なします。即ち客間で主人が手を一つ叩いた時は茶だけ持出せばよろし手を二つ叩いた時は食膳だけを出す手を三つ叩いた時は酒である。この實際生活にありそうな客間と臺所との通信法を單に畫で説明し



る題材の掴み方これを説明法と申します。更に二つの實例によつて活用をお示しいたします。

畫(1)は『胃弱の食ひしん坊』と題する漫畫であります。胃弱の癖に食意地が汚い人物のそばやすしを取つて食べたあとの殼の盤臺であります。胃散の罐の殼とオブラートの包が一つ側に轉がつるので食つた人物の胃弱の程度、慎心深さが説明されるのであります。

畫(2)は『來客接待のサイン表』と題する漫畫であります。これはある家庭の臺所に貼つ



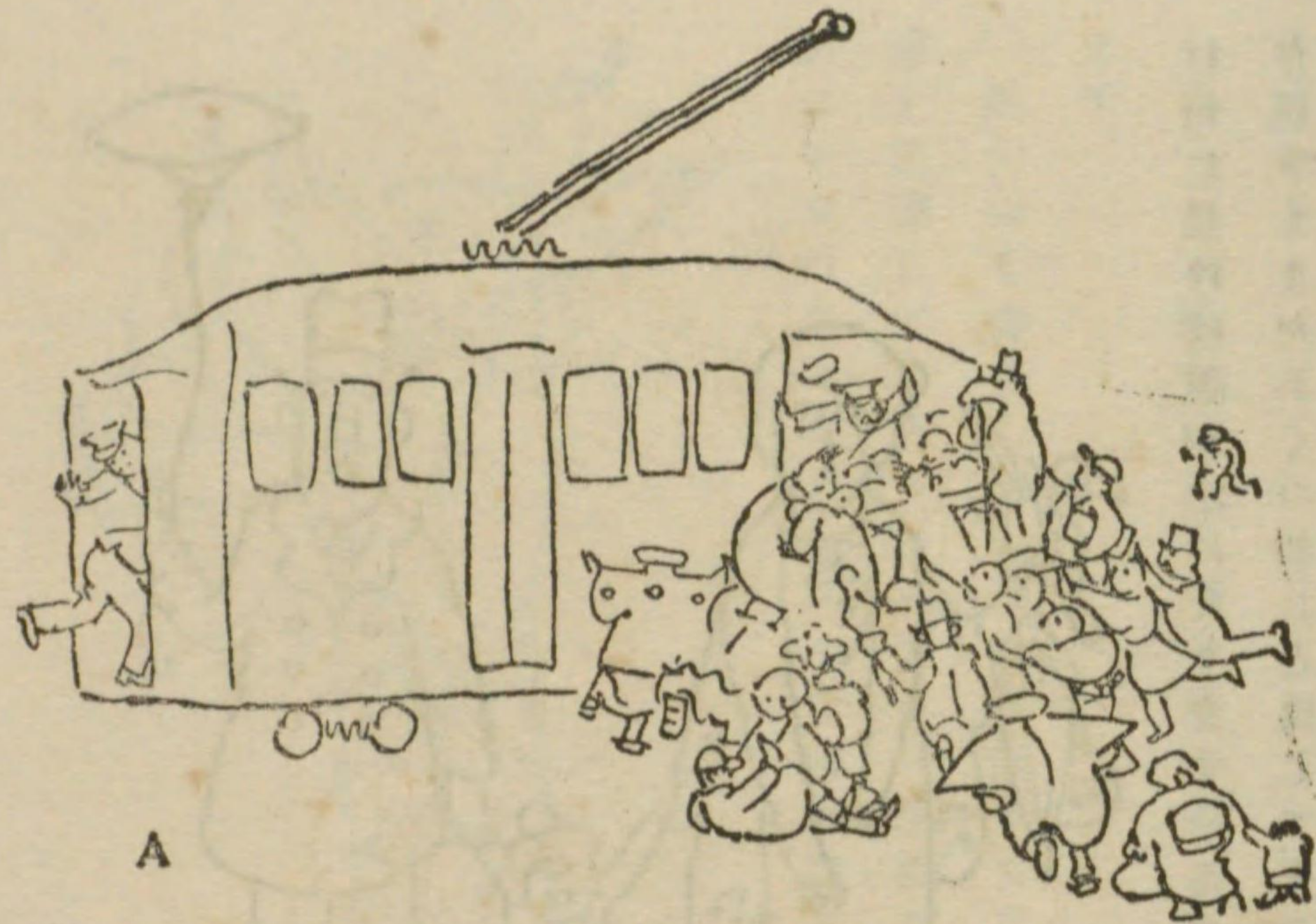
(5)

からそれを参照して頂きたい。
 畫(5)は『母親がモダンガールの娘』に對する諷刺畫である。娘は裁縫が嫌ひでダンス通ひばかりしてゐる母親が娘に對する理想はその反對であります。そこでそれを撓め直す工夫として搦手から攻撃して『お前今に夫に風呂敷でも冠せてダンスする氣か』といふ畫を描く。

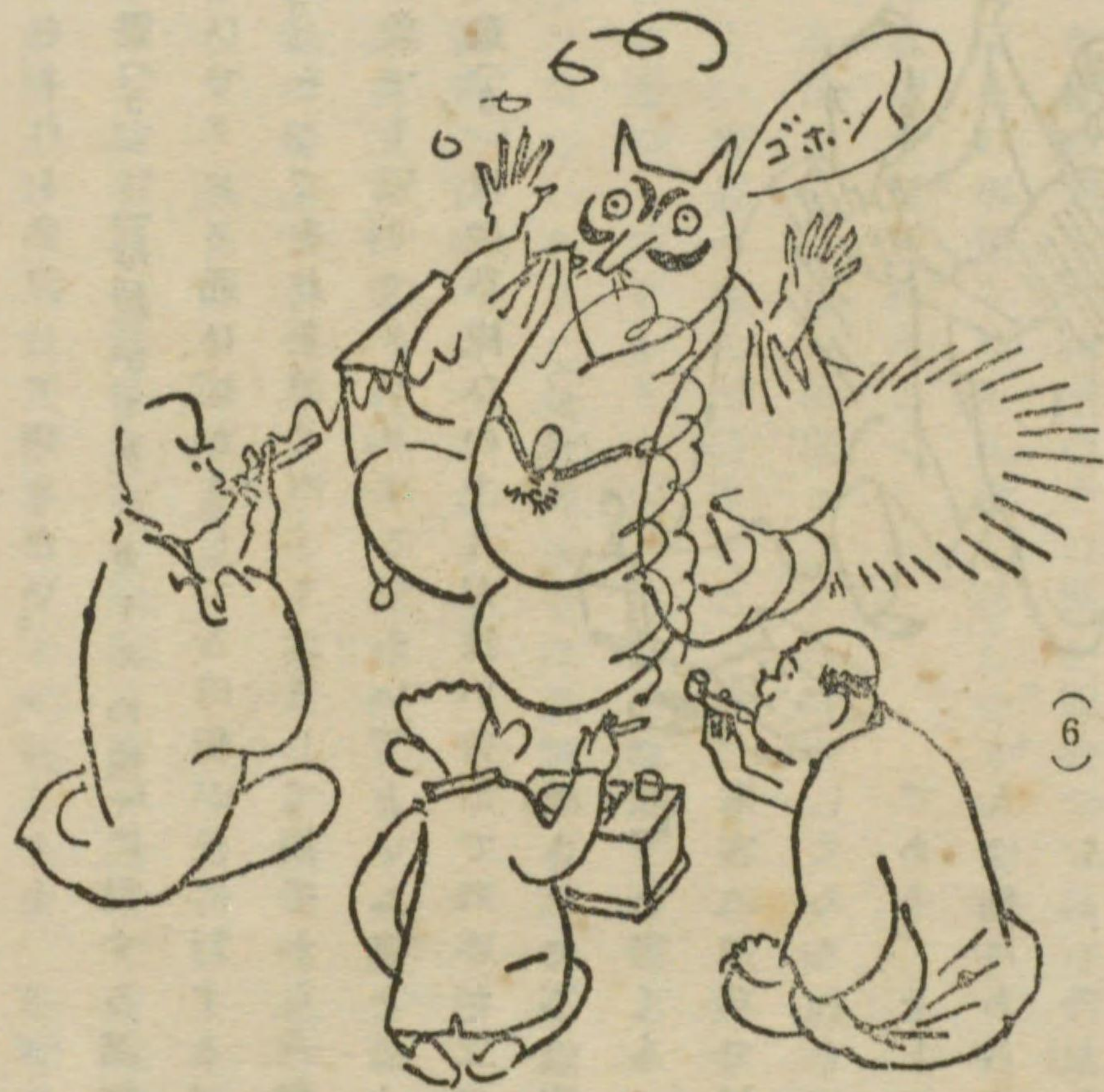
畫(6)は煙草嫌ひの主人が狭い書齋で來客が立て込む時煙草の煙濛々と燻されて不健康でしやうがない。『禁喫煙』と書くもチト失敬である。そこで來客に煙草で燻されてゴホン〜咳をしてゐる狸を描く、勿論顔は主人の似顔である。そしてその漫畫の肩書に『主人は狸にあらず。燻すのはモウごかんべん〜』と書いたら客は笑つて喫煙を遠慮しないだらうか？

す。諷刺の仕方といふものは酸いも甘いも噛み分けたおちさんの叱言のやうなもので先づ相手のどの點が間違つてゐるか見定め扱その點を攻めるに一度その事情を他に比喩に移し他方ごとのやうにいつてのけて効果の上では眞綿で頸を締める。
 事情をそのままに描き寫すので無い。一度その事情を説明するのに都合のよい舞臺へ運んで行き、そこで胸倉をとる。だから前回に説明した比喩法と共通のものであります。たゞ比喩法ではたとへになぞらへるところに興味の重心があり、この諷刺法では諷刺するために比喩法を武器とするのだから諷刺に興味の重心があります。
 諷刺法は餘程巧利的のものであります。かうしたいとかあゝあり度いとか既に希ふ理想の尺度がありそれに當籤めて曲つてゐるから撓め直す方法として一本まゐるのである。

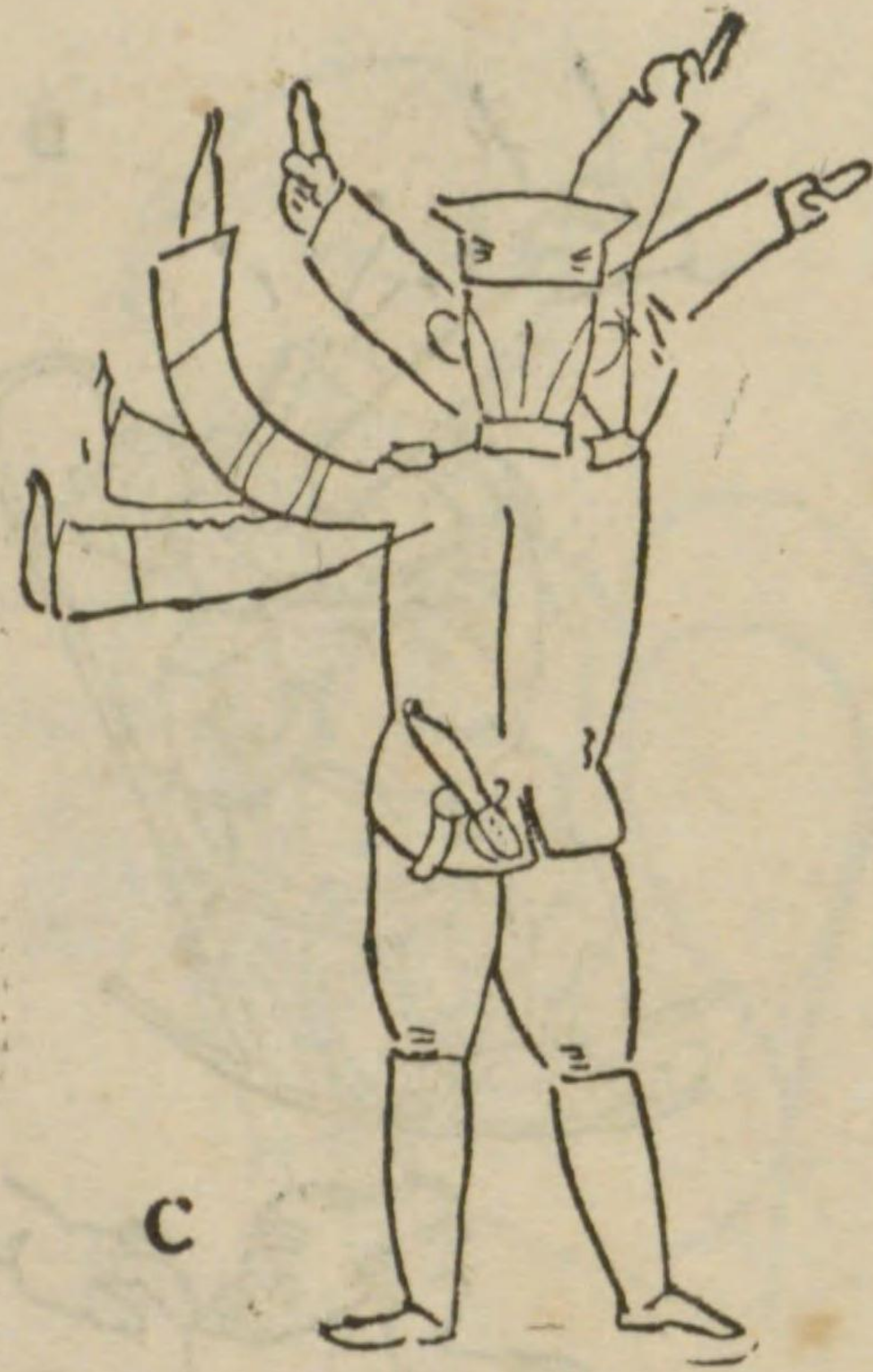
即ち諷刺畫の題材となる缺點を探し出すには先づ理想の尺度をもつてその事情を計つて見るにあることが判ります。相變らず實例を描いて見ます



聞かせる。描き手の頭で漫畫のタ
ネに加工はしないがタネを頭で十
分にほごしてはあゝる。
この描寫法はそんな難かしい處
は通さず、唯單に見てそのまゝ描い
ただけで面白いと思ひ付いたもの
を向ふの通り筆に上せるのです。
主觀の味の素が入らぬからこの種
の漫畫は畫がうまくなくては見ら
れません。
畫(A)は出勤時間中の市内電車
です。押し合ふもの、抜けがけをす
るもの、囓り付くもの、飛びつくもの、
彼等は死物狂ひだが傍觀すれば面



描寫法
この法は描き手の考
へは一切加へず、唯ある
がまゝに見てそのまま
描けば面白いのを申し
ます。専門語で申すと
客觀的描寫といふ部類
です。
前掲の説明法と同じ
やうですが、説明法では
既に向ふのものに一た
ん描き手の批判を加へ
描き手の頭の解釋で漉
して意味の重心を話し

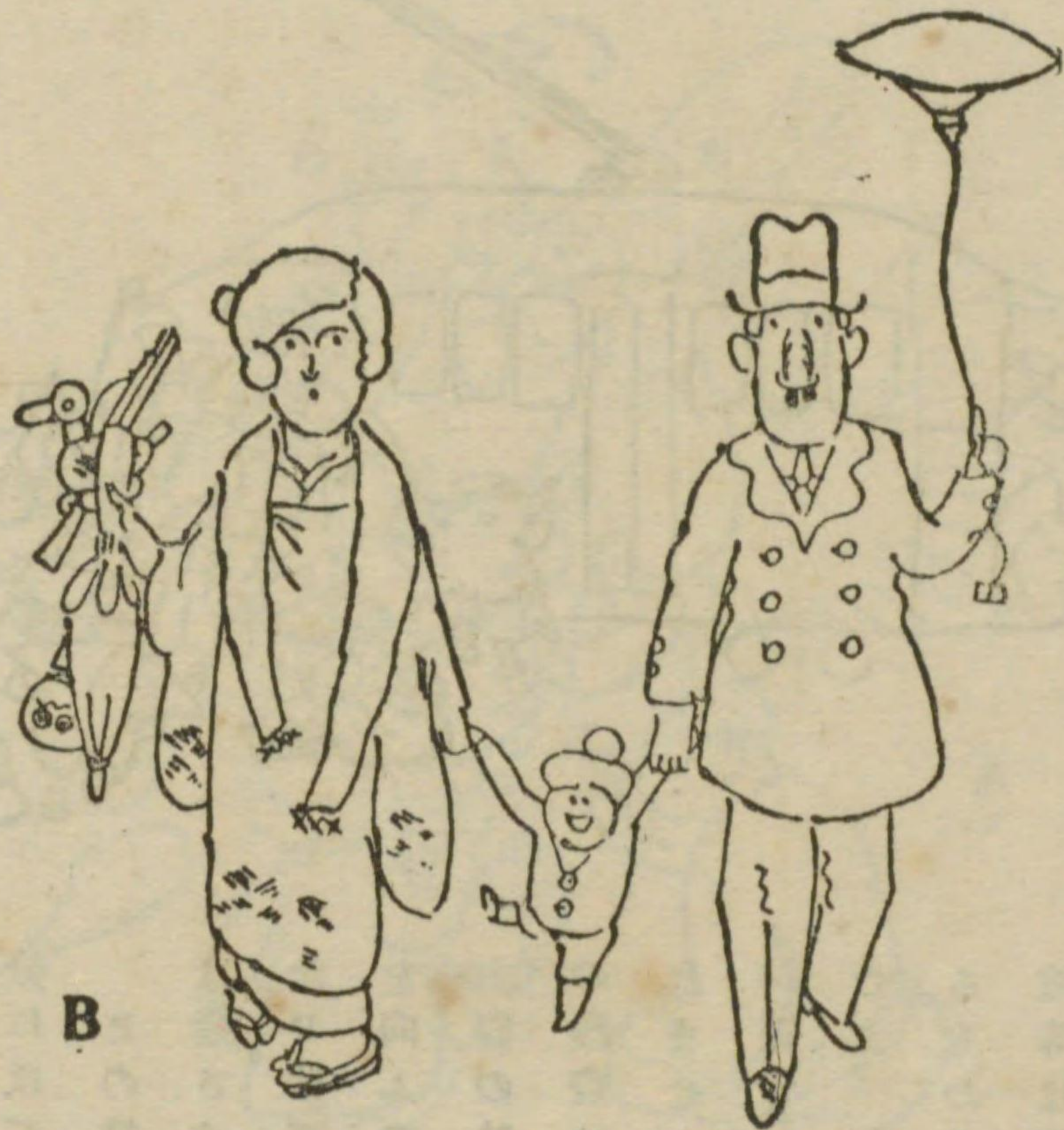


これは單純な主觀を直接に繪に描いてしまふ法です。中にも人の攻撃や腹癒せや呵責などを繪の上でするに都合の

攻撃法

の味も加へずそのまゝその形を寫せば漫畫になります。即ち描寫法のよい材料です。

畫(B)は親子三人日曜遊歩の圖。たゞ趣を寫したゞけで軽い漫畫になります。
畫(C)も皆さんがしじゆう市中で見かける面白い圖です。交通巡查が交通を整理してゐるところです。手振り足振りに一種のリズムが出来てオーケストラの名コンダクターの指揮棒を振るのと同じ鍛練である。何の解釋の味も加へずそのまゝその形を寫せば漫畫になります。即ち描寫法のよい材料です。



白い。こつちは一二臺待つゝもりで見れば面白い。面白いといふては濟まないけれども面白くないとは云ひ切れない。よつて思ふ漫畫の材料になるとは電と漫畫家になるのとは電車一二臺の違ひであると。閑話休題。もし又これを單純に面白いと感ぜず同情を持つて觀て市中交通電車の不備を攻撃する

材料に描けば諷刺法になります。多少神經衰弱の場合にこれを見、人生の生存競争もまたかくの如しと感じて、その哲學を偶して描けば比喩法になります。



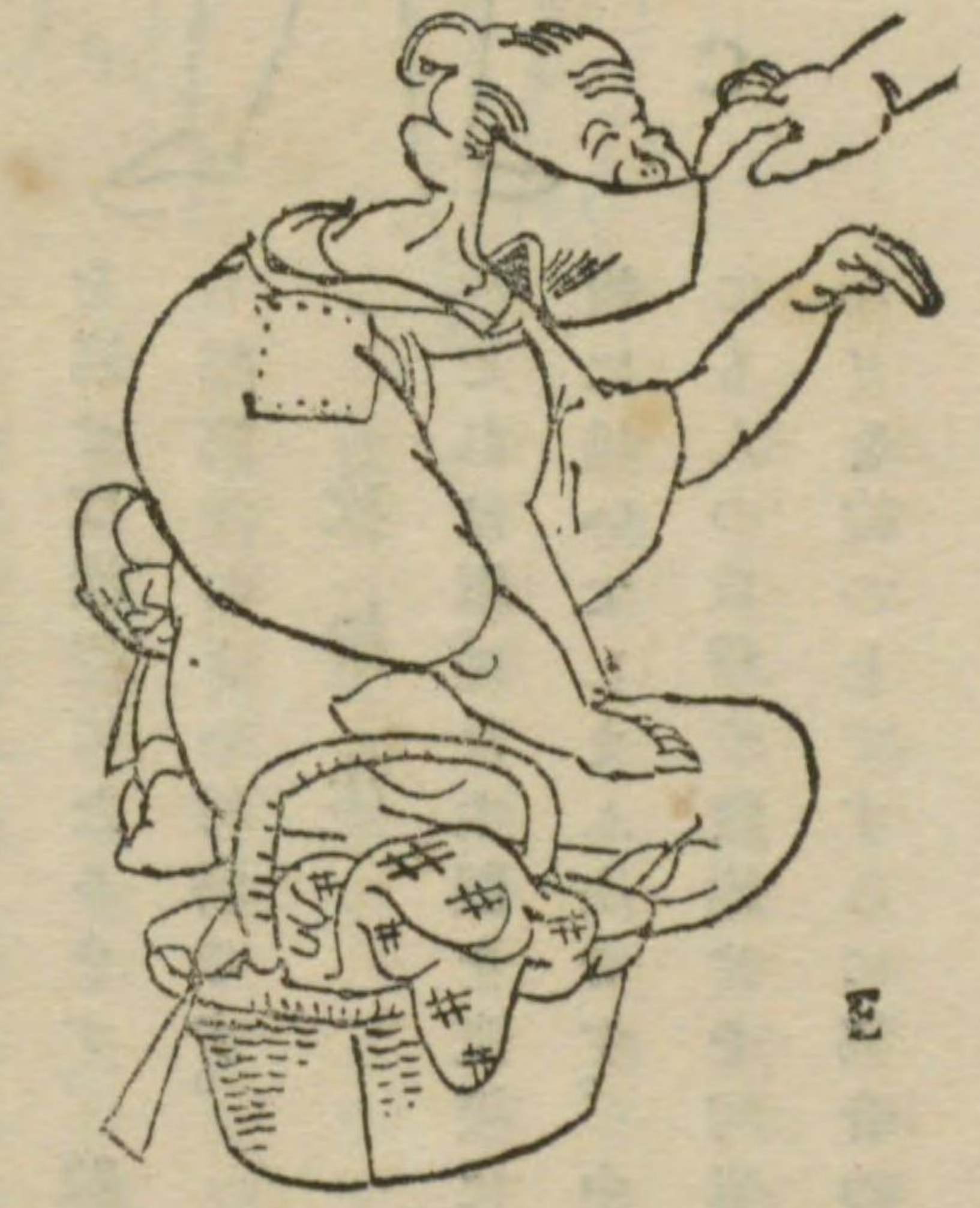
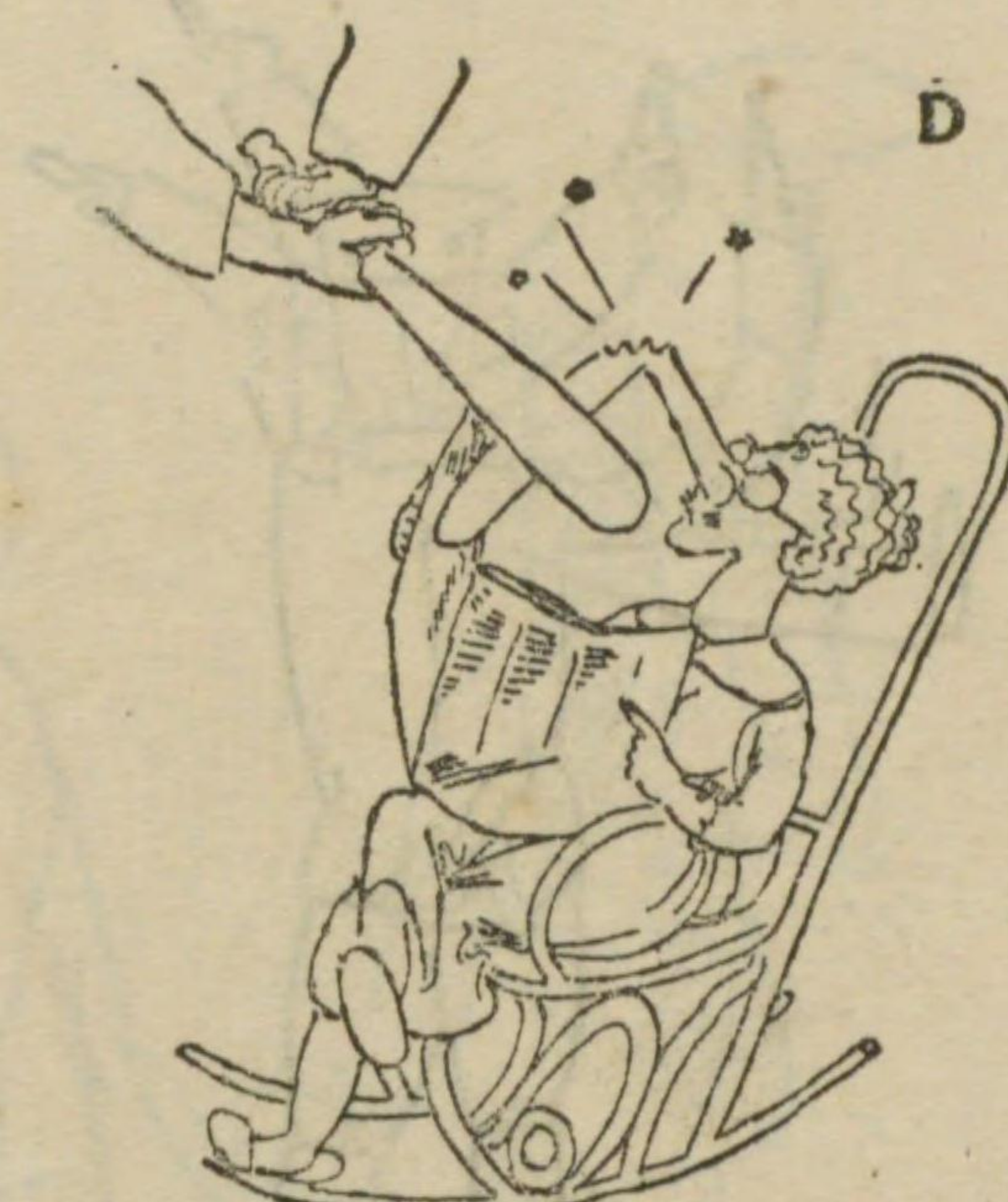
F
 家族の連中やしじゆう來る客の手合ひや、友人間、勤先の同僚なぞの癖を取つて描いてみるのも一興です。人の悪いいたづらとのみはいひ切れません。癖によつてその人の性格

癖取り法

を探して見ましよう。

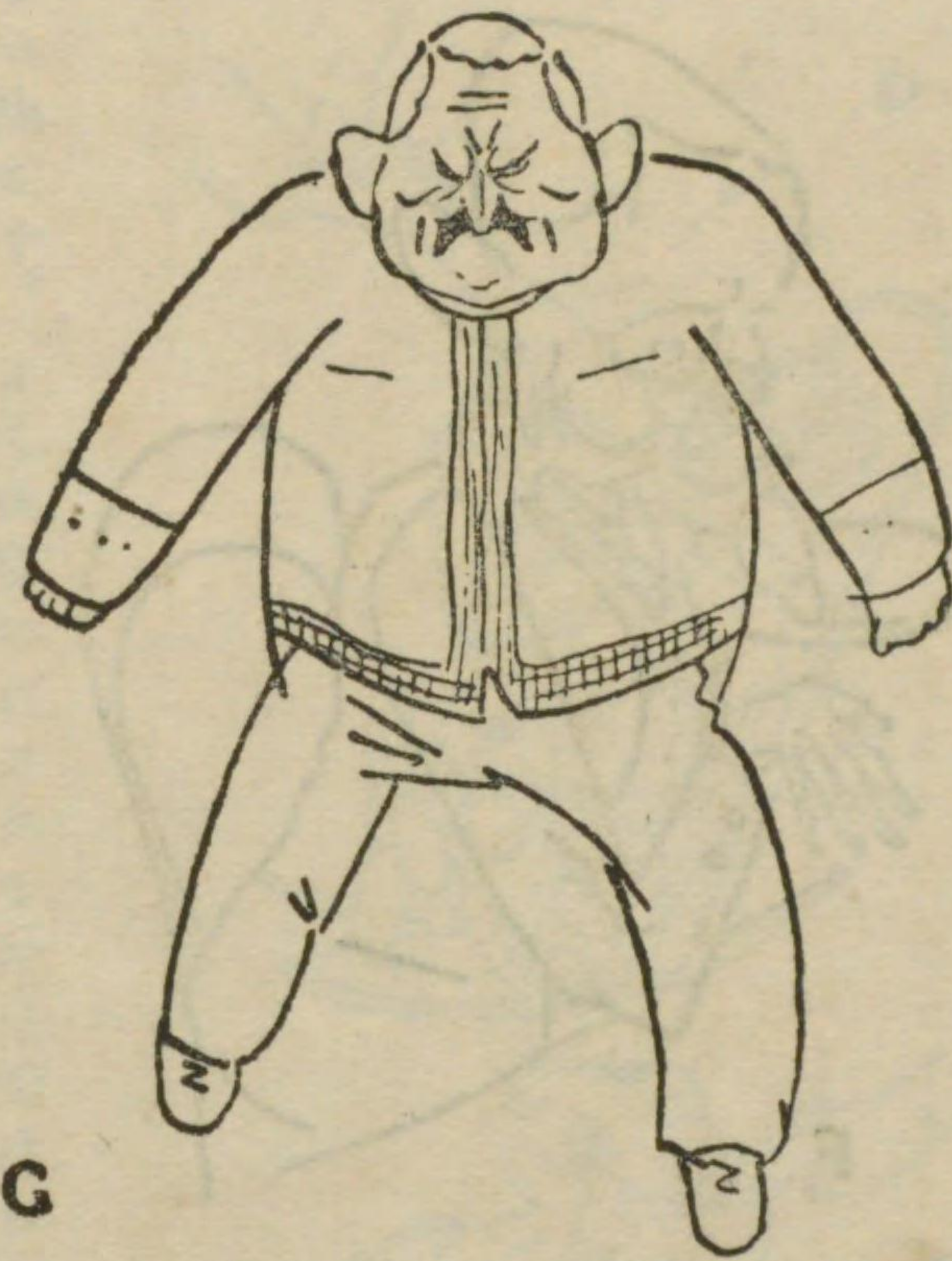
畫(D)は老嬢の洋行歸りのおばさんが英字新聞を讀んでゐる時の鼻です。この鼻をバットでヘン折つてやりたい。

畫(E)はいつも洗濯ものを取りに來る横町の婆ばアが用もないのに臺所で喋り出したら大きな聲で長話ししてゲラ〜笑つて二階の勉強まで妨げる。こんな奴には萬瘡膏を貼つてしまひたい。



よい法です。よく政黨のポスターに見受けますが時の政府を攻撃して國賊に天誅を加へんと時の首相の頭に拳固を與へ〜拳固には正義といふ字が書き込んである——首相の頭から星が飛出してる、あれです。

この方法が深酷になつて少し實行に移つたのが藁人形に五寸釘を打つ奴です。この漫畫法は子供がよくやる法です。それからどこかの國の宣傳ポスターもこの法がお得意です。この法を家庭内に持ち込んで一つ二つ材料



C

頓ずきの理想家の一面がこゝに現はれてゐます。

畫(G)は財部海相の歩き方です。この歩き方はゆるる軍艦の甲板に平定を保つための歩き方、海軍歩きと申します。癖になつてゐるから議會の廊下でも矢張り軍艦の積りで、海軍歩きをしてゐます。

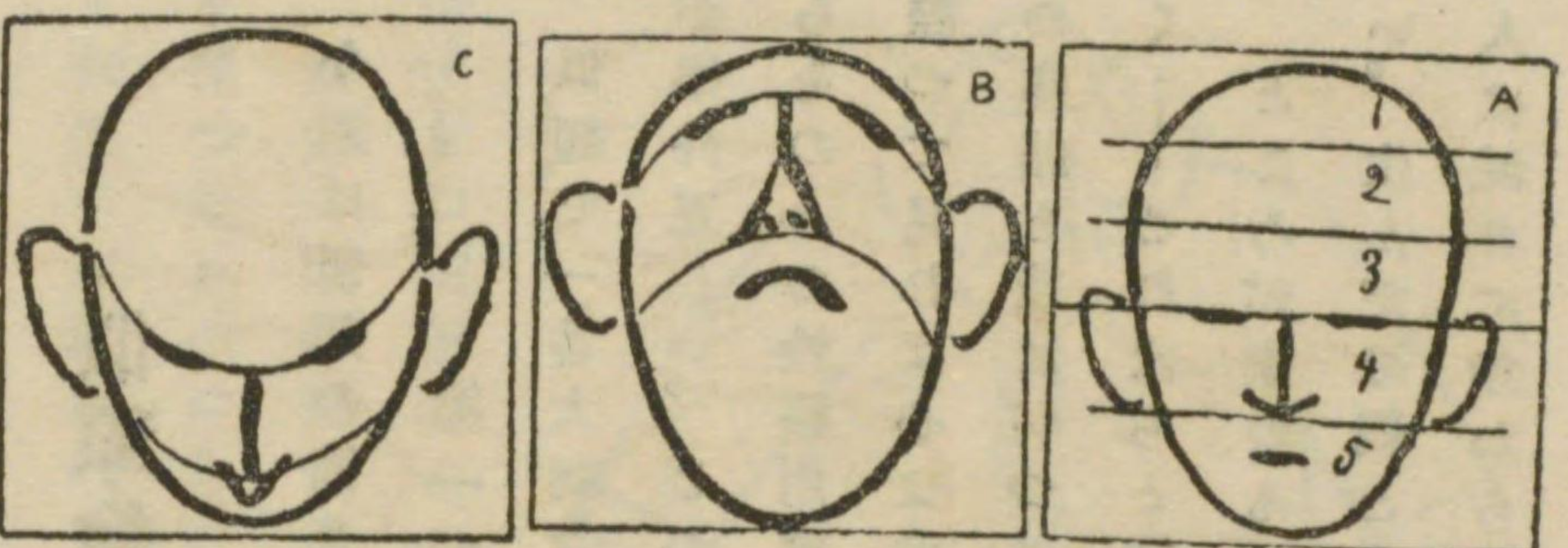
が丸彫りに表現されたなら立派な藝術であります。癖でその人を描くのは性格の似顔畫を描くやうなものです。次に例を御示いたします。
畫(F)は尾崎行雄さんが化粧ずきの猫のやうにしじゆう親指で髭の先の弾ね方を直してゐるところです。潔癖。整

似顔繪の描き方(續)

今回は似顔の描き方を素人方にも出来るやうに説明してみましよう。

第一印象と性格描寫

似顔で一番大切なのは第一印象ファーストインプレッションであります。初對面の時に受ける感じが案外正しい。この感じを忘れずに感覺の記録にとどめて置き、さてそれからその人の性格内容に入ります。あの人は狸の様な顔をしてゐるが、實際交際つて見れば心は羊のやうにやさしい、でその人の肖像として第一印象の狸の感銘と後に判つて來た羊のやうな心と照し合せ狸羊の混血兒の似顔を描く——これはちと冗談に過ぎたが要領はまづざつとこういつた鹽梅式。
ところが家のものゝ顔を描く事になるとこれが無いから實は仲々難かしい。生んだ母親との初對面の時の顔の印象などといふものを持ち合せてる人は減多に無からうと思ふ。性格にしても家族の事はあまりに多く知り過

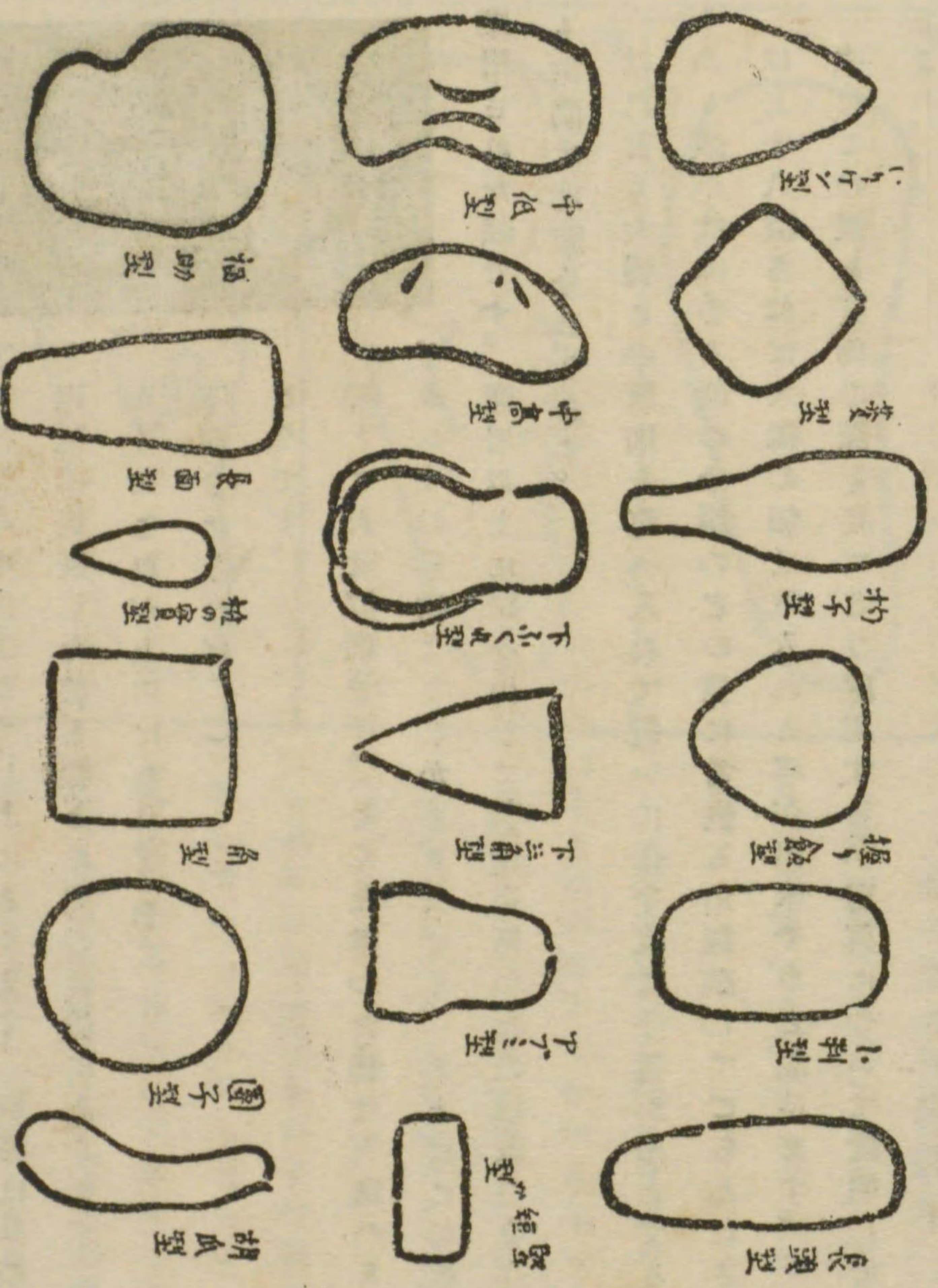


ぎてどの點が特色やら判らなくなつてしまふ。故に家
 のものゝ似顔は仲々難かしい。
 だからまあ成る丈け初對面のつもり赤の他人の積り
 でたとへ家のものにも『お初にお目にかゝります。
 將來何卒よろしく御引立を』と番茶の煮花でも汲んで
 出すぐらゐな客觀的態度に立つて觀察しなければいけ
 ない。

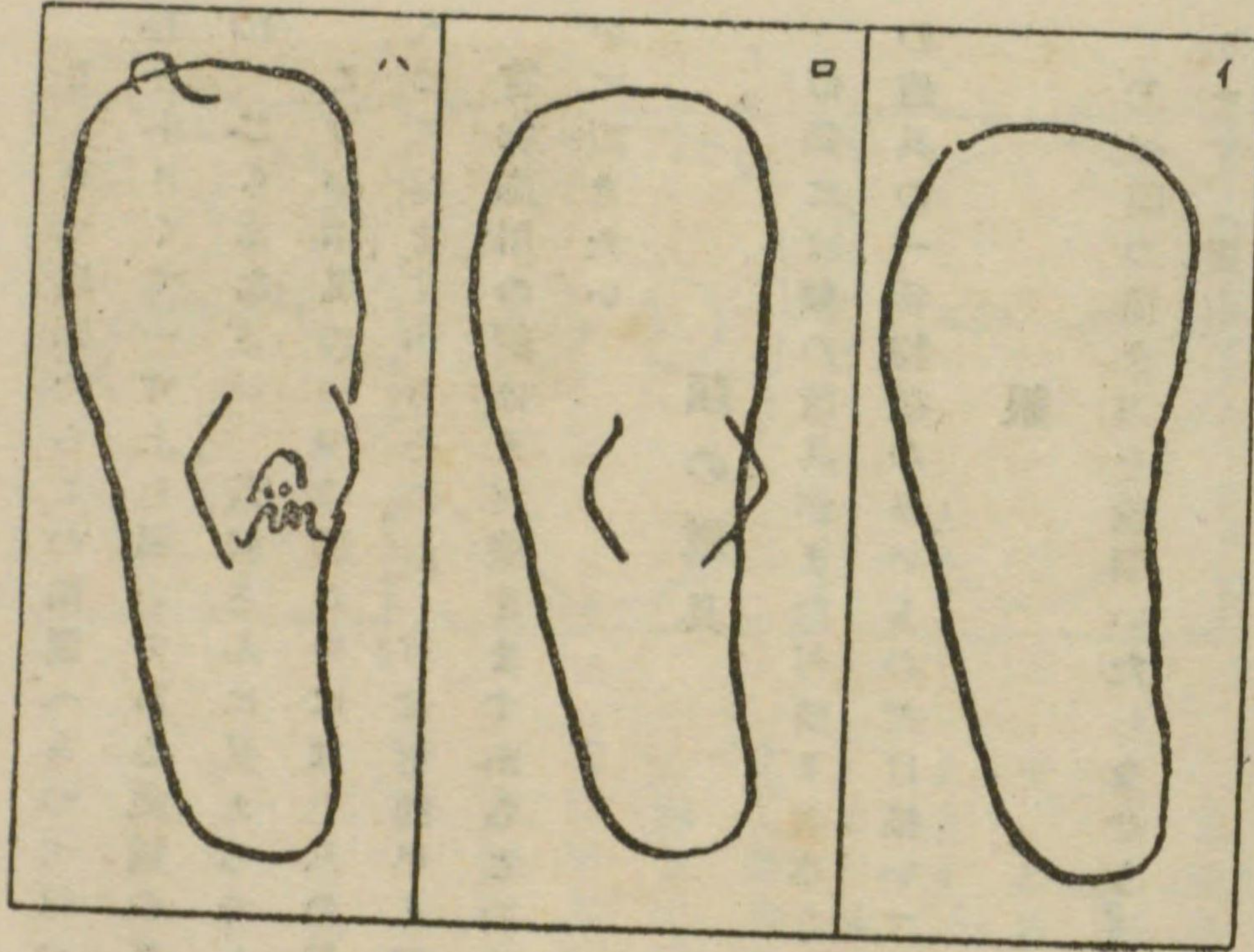
人間の顔の原則

先づ人間の顔の原則を述べます。人間の顔は卵形な
 のが原則です。(畫A)

この卵形を五つに割ります。(この割方は東西美術解
 剖學者によつていろいろ違ひますがこゝでは簡單にし
 て置きます。)そして上から三つ目の仕切の長さが鼻の
 長さ两眼はその仕切の上の線上にあります。口は一番



顔の輪廓の分類



同君の寫眞の顔を見詰めてみると始めはよくわからないけれど段々その構造の特徴を感覚で誇大にして行くと遂にこの顔は

(イ)

逆にした胡瓜型がその根本をなしてゐる事に氣づきます。しかしたゞの胡瓜型ではありません。胡瓜型の中に菱型の頬骨が張つてゐるのに氣付きます。(ロ)

顔の型の實物應用

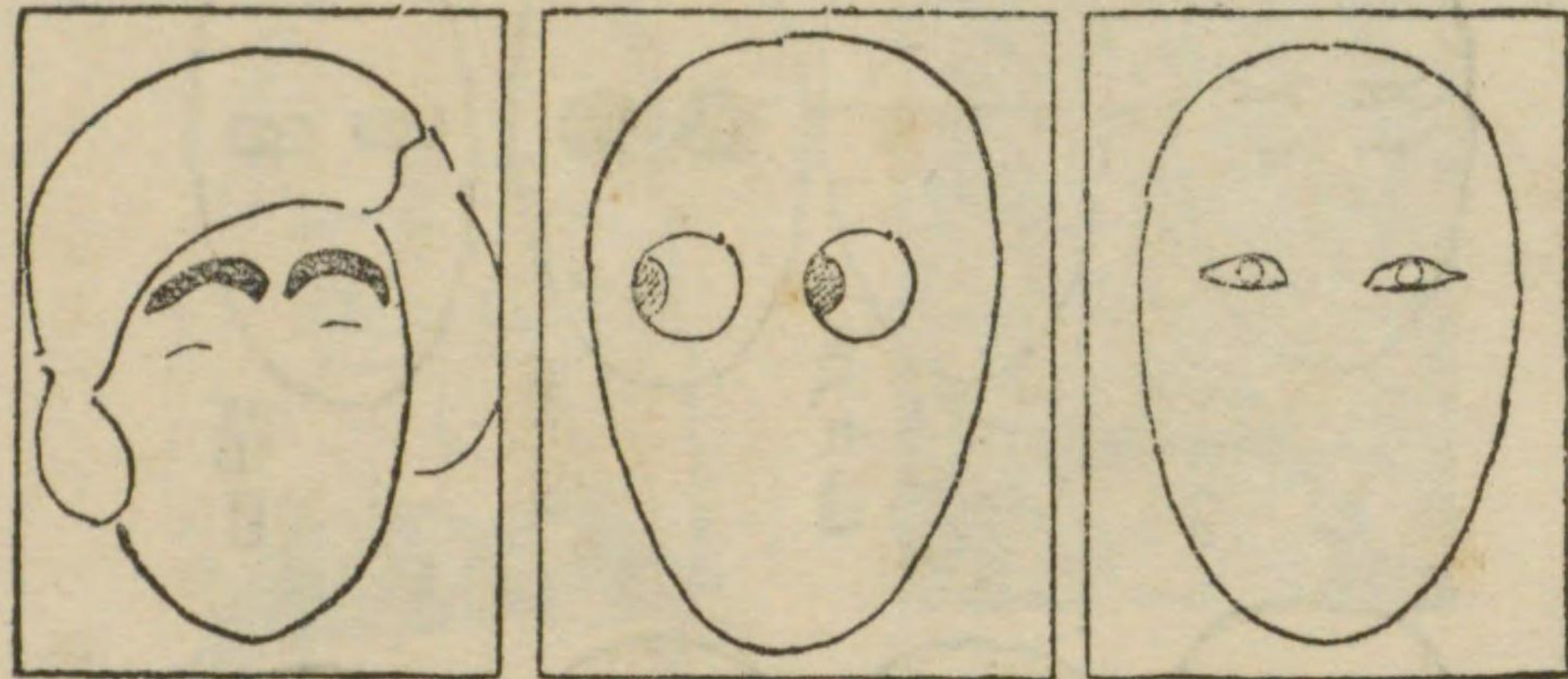
第一番に若槻さんにモデルになつて頂いて研究して見ましよう。

けれども大體この原則を腹へ入れて置いて扱今度は今描かんとする家のものゝ顔が次にある顔の分類のどの型に當嵌るか觀察してごらん下さい。以上十八種あれば大概の顔は取入れる事が出来やうと思ひます。次にこの型を實物の顔を見てどう應用するか寫眞について説明して見ましよう。



下の仕切の中央より少し上にあります。兩耳は鼻の長さを兩側へ延長した線と線との間の位置にあります。かくてこれが上向になれば(B) 下向きになれば(C) ことです。

然しこれは原則です。こんな整つた顔は天國の人間かギリシヤの彫刻よりしかありません。あとはこの原則が應用された顔です。應用以上に踏み出して新派を拓いた表現派のやうな顔も世間には随分あります。



ところが人によつては千變萬化いたします。支那金魚のやうな出眼もあつたり、(畫中) あるかなきかに霞んで居る陽炎眼もあります。(畫左)

その極端な例を一ダース程圖解いたします。(畫次頁)

總じて眼は兩眼寄つてついて居るか、離れてついてゐるかによつて表情が變ります。また眼頭と眼尻の上り下り具合で似る似ないのゴツがありますからこゝを見届るのが肝心です。

それから瞳の位置も上眼蓋へつけければ恨めしくなるし、下眼蓋へつけければ大風になるし、面白いものです。

こゝまで出来たらこの輪圖へもつて行つて同君の顔の特徴である。額の毛と小さくて一寸上を覗いてゐる愛嬌のある鼻と、クシャクシャとした髭を入れてごらん下さい。若槻さんに見えるでしょう。(ハ)

こゝいふ風に一つの顔の中には十八の型のいろ／＼が組コンポジション合せになつて入つてゐますからその組コンポジション合せを逸早く氣取つて描き現すのです。

實物應用の例はまだ続きますからこの十八の型は失くなさず取つて置いて頂きたい。

顔の道具

似顔には顔の道具がまた可成り大事なものであります。人によつては顔の道具の一番特徴の多いものだけ描いてその人に似る事があります。

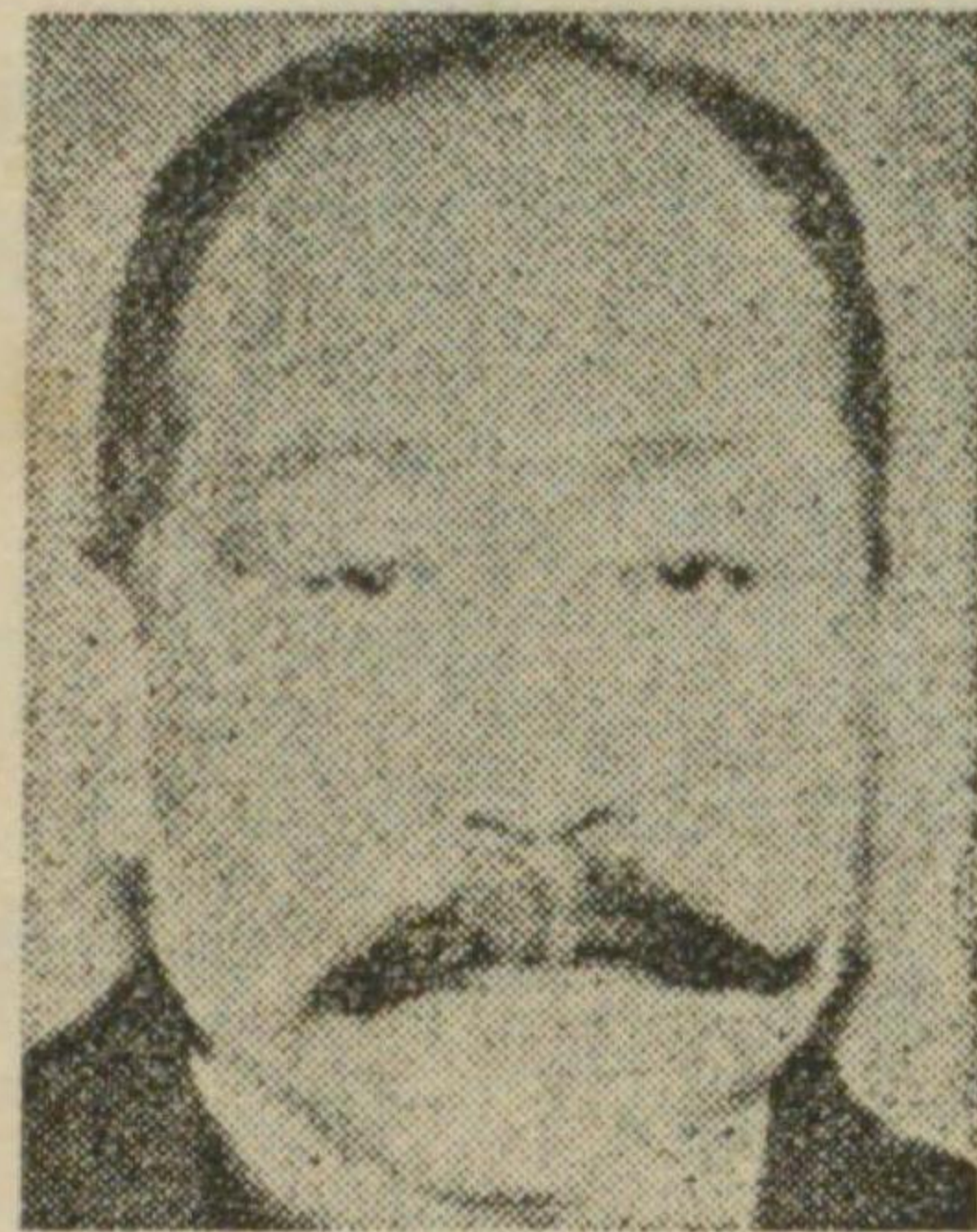
眼

先づ眼の描き方を説明いたしませう。普通の眼は次の如き形のものであります。(畫右)



描くのです。
 下目蓋の下の肉のたるみがある。それを
 味があります。總じて張れ目を現すには

この眼は箱目の二皮目蓋で張れ目の氣

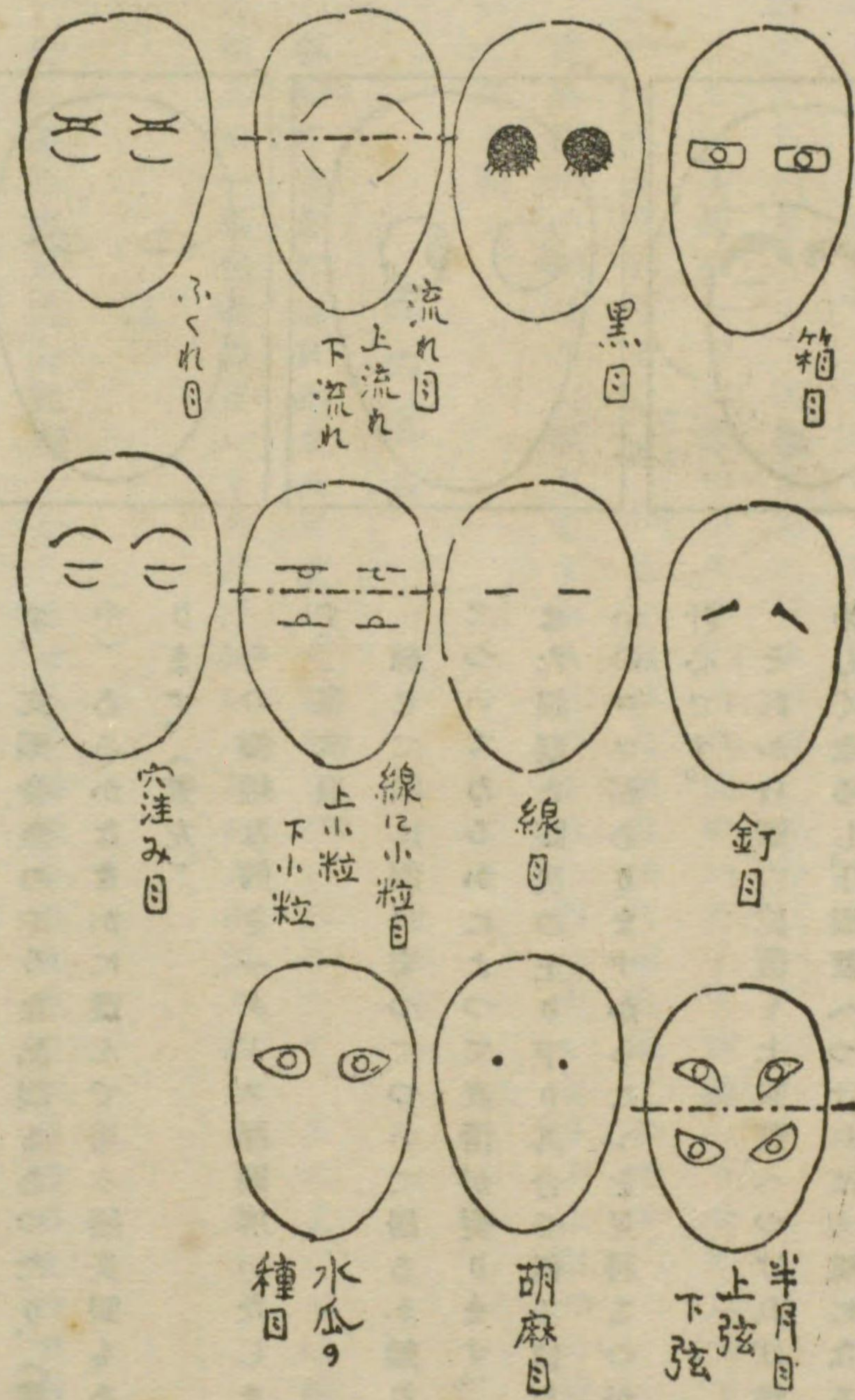


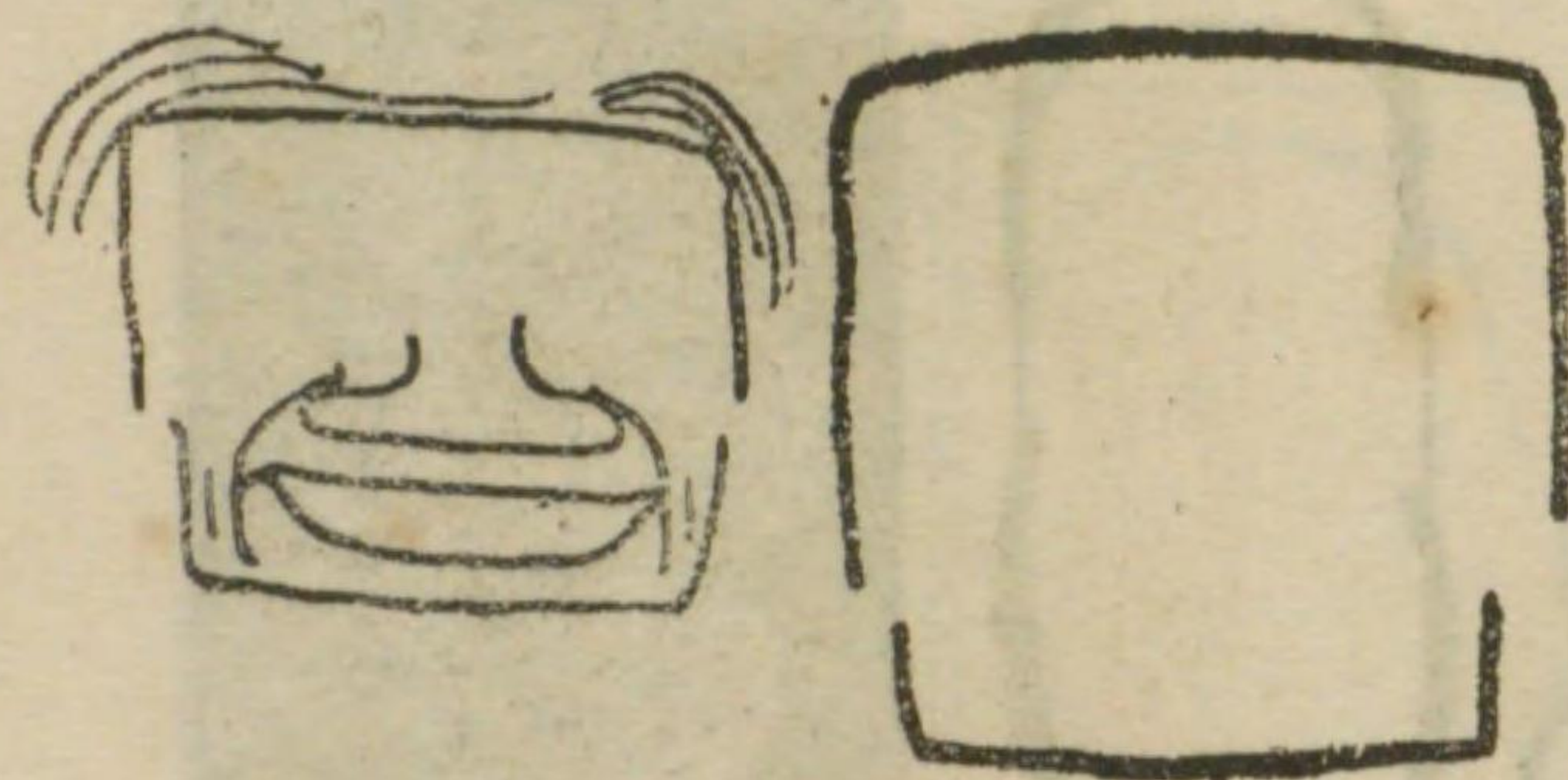
片岡直温氏

片岡直温氏

眼の型の應用として片岡直温君の顔に

御苦勞を願ひませう。





大倉喜八郎氏

大倉喜八郎氏

物故した大倉翁この顔は角型であります。然しよくて覽なさいたゞの角型ではありません。上から頬骨のところまで角型で来てこれから下は縦短かな四角型になつてをります。

即ちこの二つの型の組合せだといふ事が判ります。ですからその心持ちで顔の輪廓を取り顔の上より下が餘ほど負けてますからその積りで手加減します。これに氏の顔の特徴の大きな鼻と下顎へ寄つて船底の形になつてる唇と巾の広い鼻唇線鼻のわきより口の兩角へ食ひ込む皺とを描き入れると一寸似て來ます。



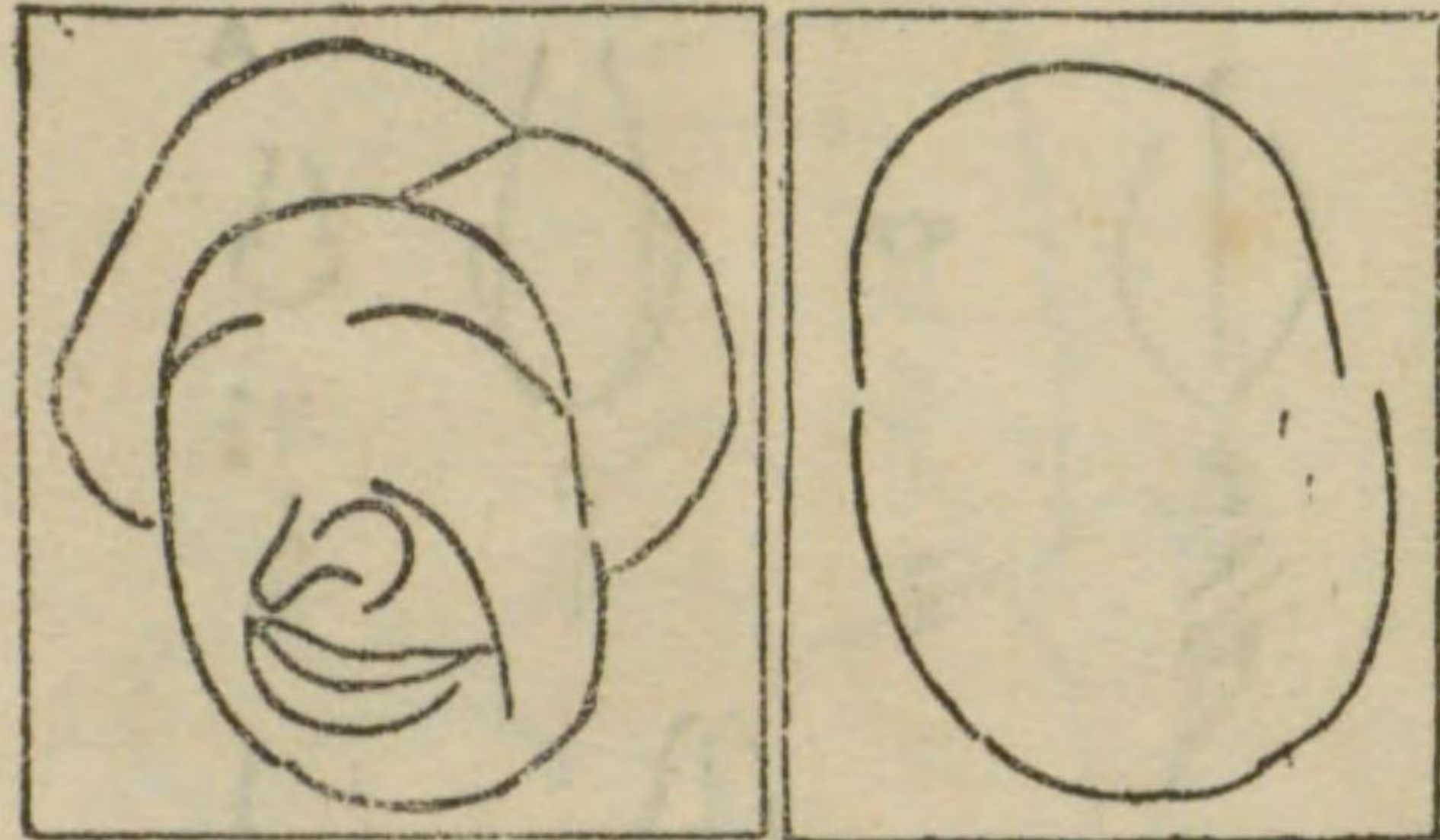
九條武子さん

九條武子さん

九條武子さんの眼は

上流れ目のよい標本で

す。



森 律子 さん

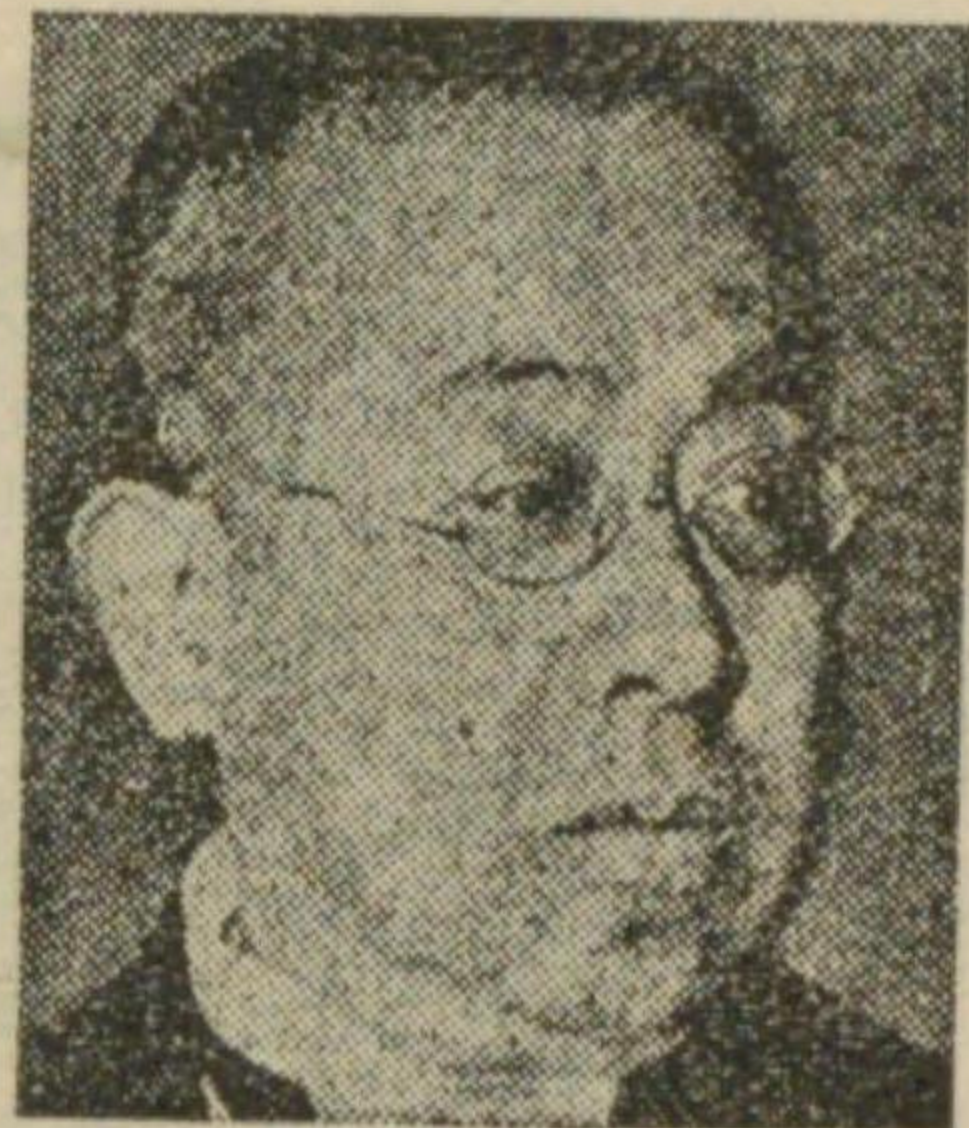
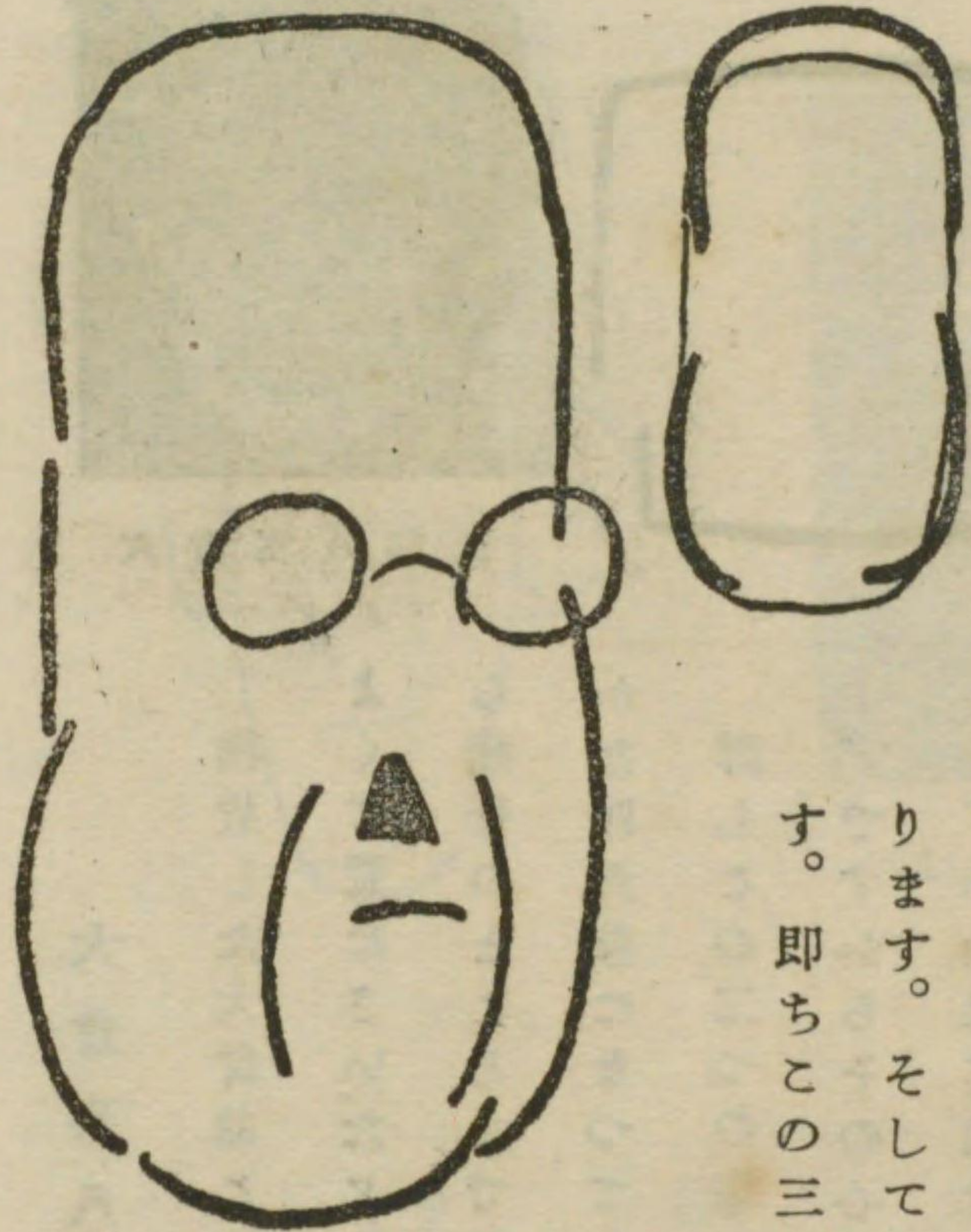
森 律子 さん

律子さんの顔は丸型が縦長になつてゐます。それに下膨れがついてゐるのです。この下膨れは頸が後方へ引込みながら下膨れになつてるところに御注意ありたし。

怒つた小鼻、うちかけの裾廻しのやうな唇の上の方に八の字に細く開いた眉、鈍くて深い鼻唇線これが特徴です。

鼻

鼻の説明に移ります。やはり鼻の型を一ダースほどお目にかけます。(畫A)



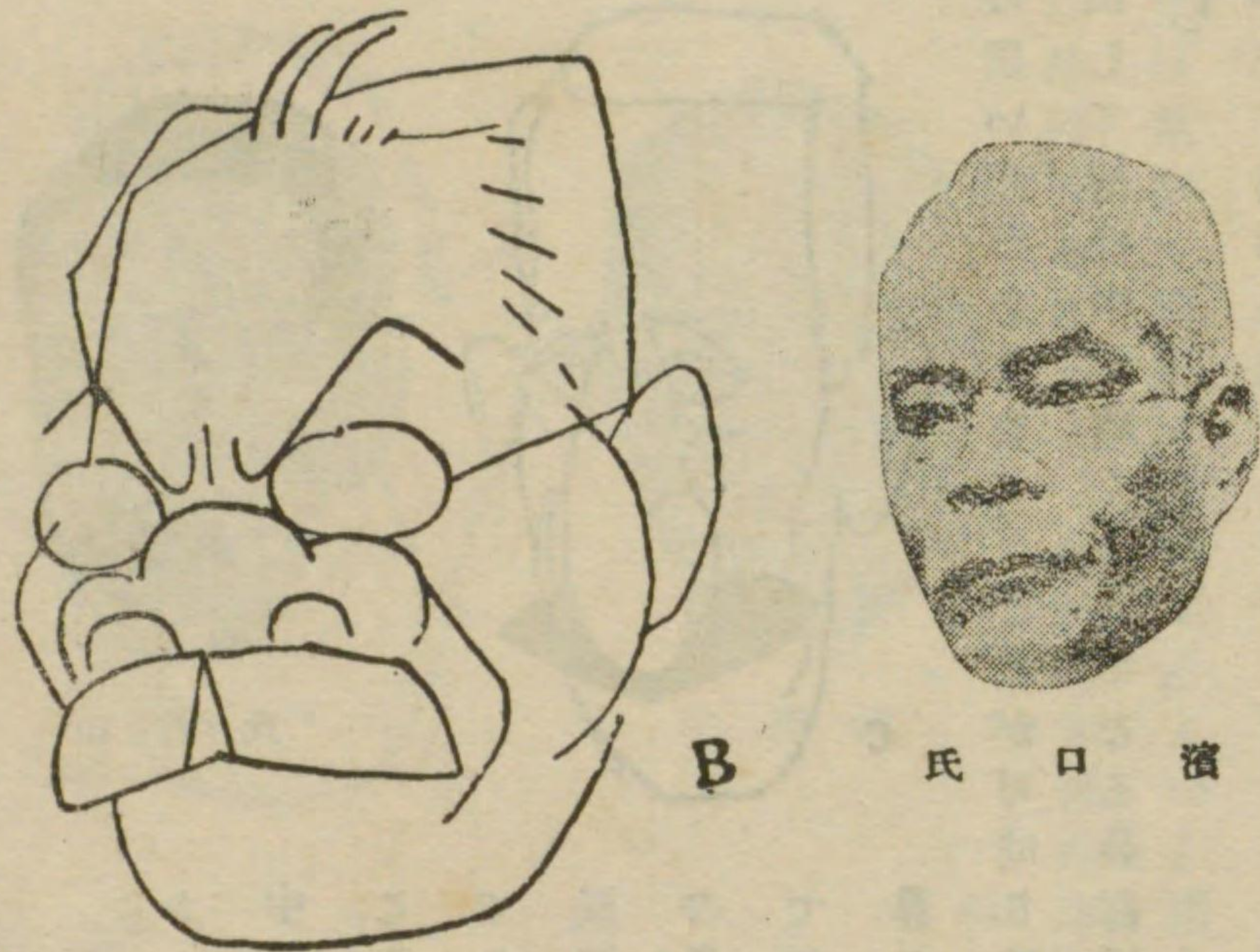
徳川家達 氏

徳川家達 氏

次は貴族院議長の徳川家達さんにご苦勞を願つてこの顔を研究して見ましよう。

この顔は顔全體としては小判型であります。小判型の上部額から上は長頭型で頭は長くあります。そして小判型の下の方は下膨れ型です。即ちこの三つの型の組合せだといふ事が判ります。

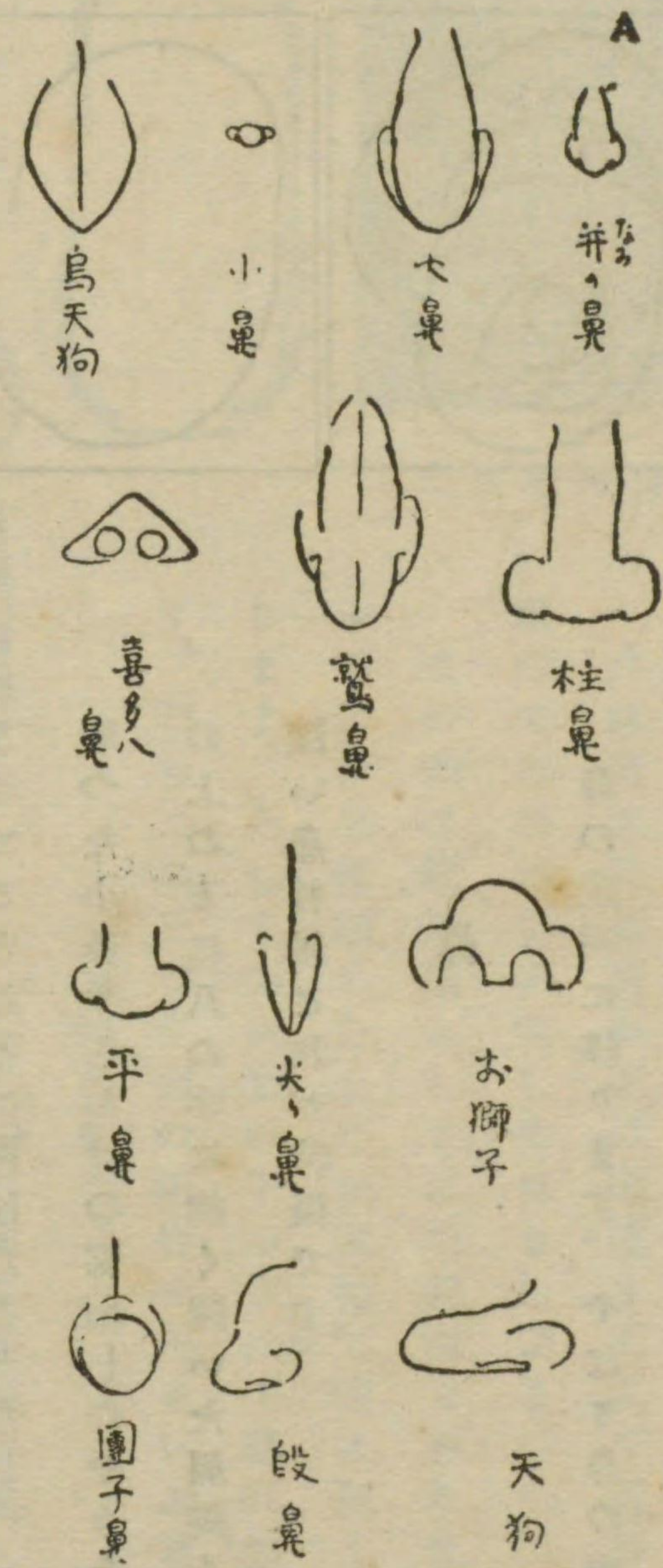
よつてその輪圖を寫しそれに氏の特徴の眼鏡と巾の狭い鼻唇線とを描き込みます。突出つてつぐんでゐる口を描き込みます。それ議長さんが出来ました。

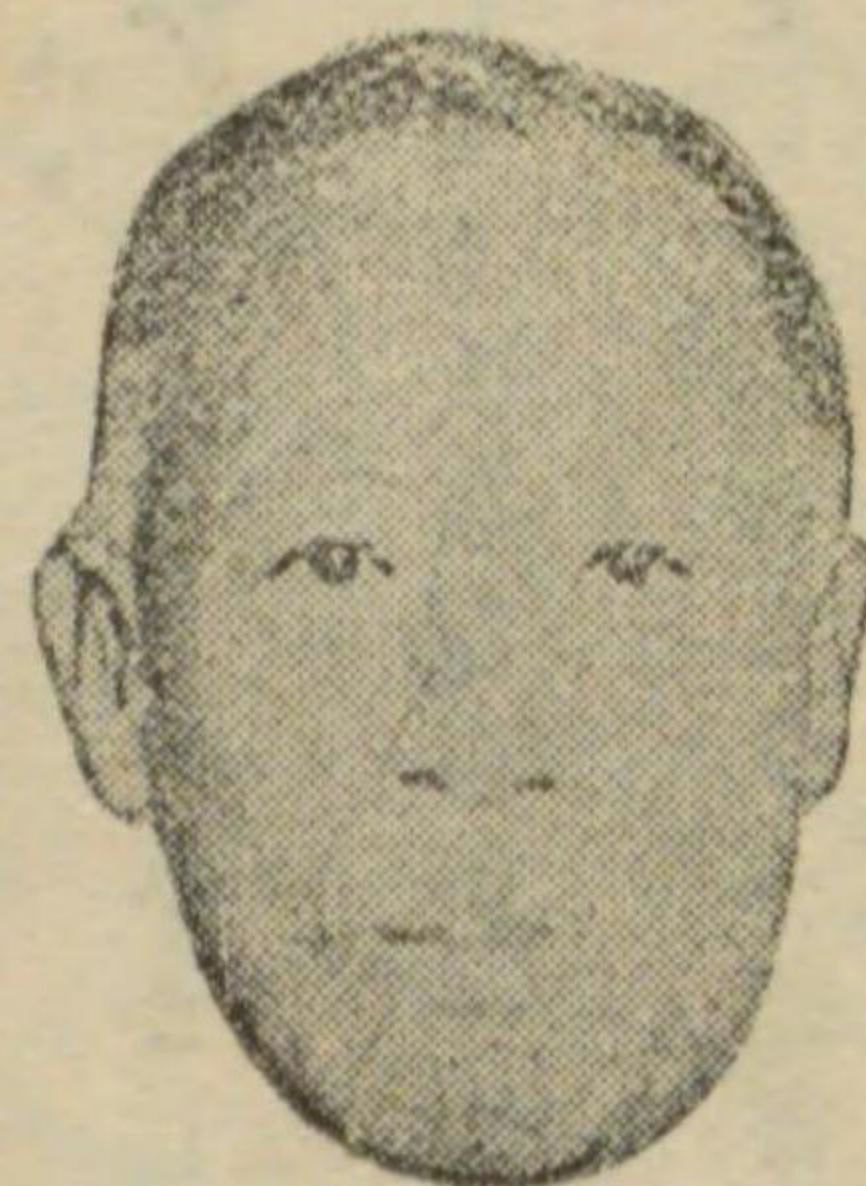
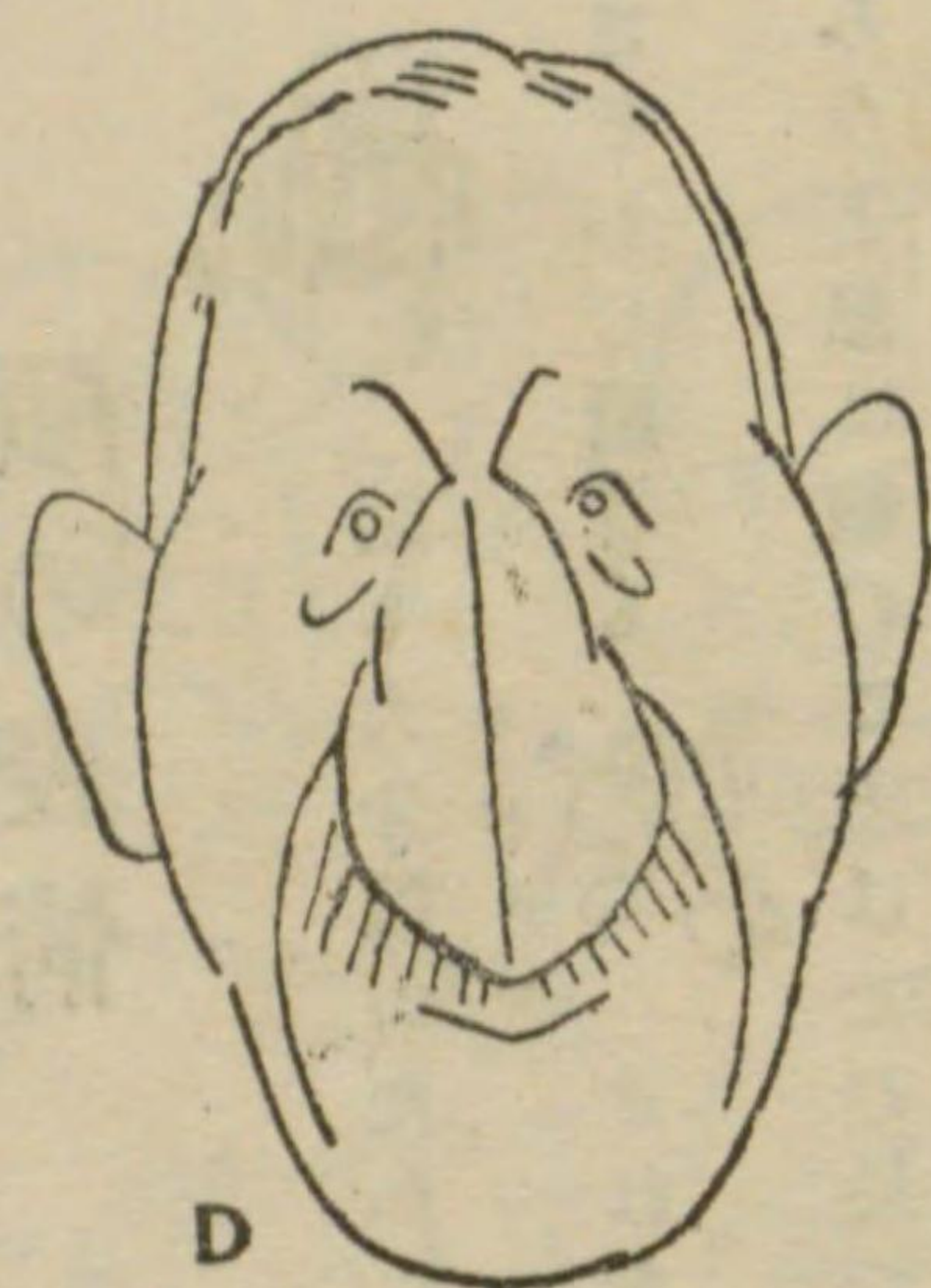


濱口總裁
 氏の鼻は世間で定評ある如く、お獅子型の典型であります。このくらゐ立派な御獅子になれば藝術品といつても差支へありません。ロダンが拵へたお獅子の鼻であります。氏の顔はこの鼻を中心にしてその下に鳥の翼を二つ並べたやうな髭を描きます。顔の輪廓はすこぶる多角型です。外に特色づけるものは眼鏡——眉——額の上の馬のタテガミのやうなかみのけ等見のがしてはいけません。これで濱口さんの顔が出来ました。(畫B)

右の活用を例により實例について説明いたします。

鼻の實例





仙石 此

つとも鼻の裏表についでる眼はあまり無いが——然し氏の鼻は特に鼻の根元の両側に緊密についでるといふ感じを起させる眼です。そして黒眼勝ちの凸眼であります。だから眼蓋の下の方が可成り深い。眉は薄く顔の輪廓は頭の方が大きい長面です。(畫C)

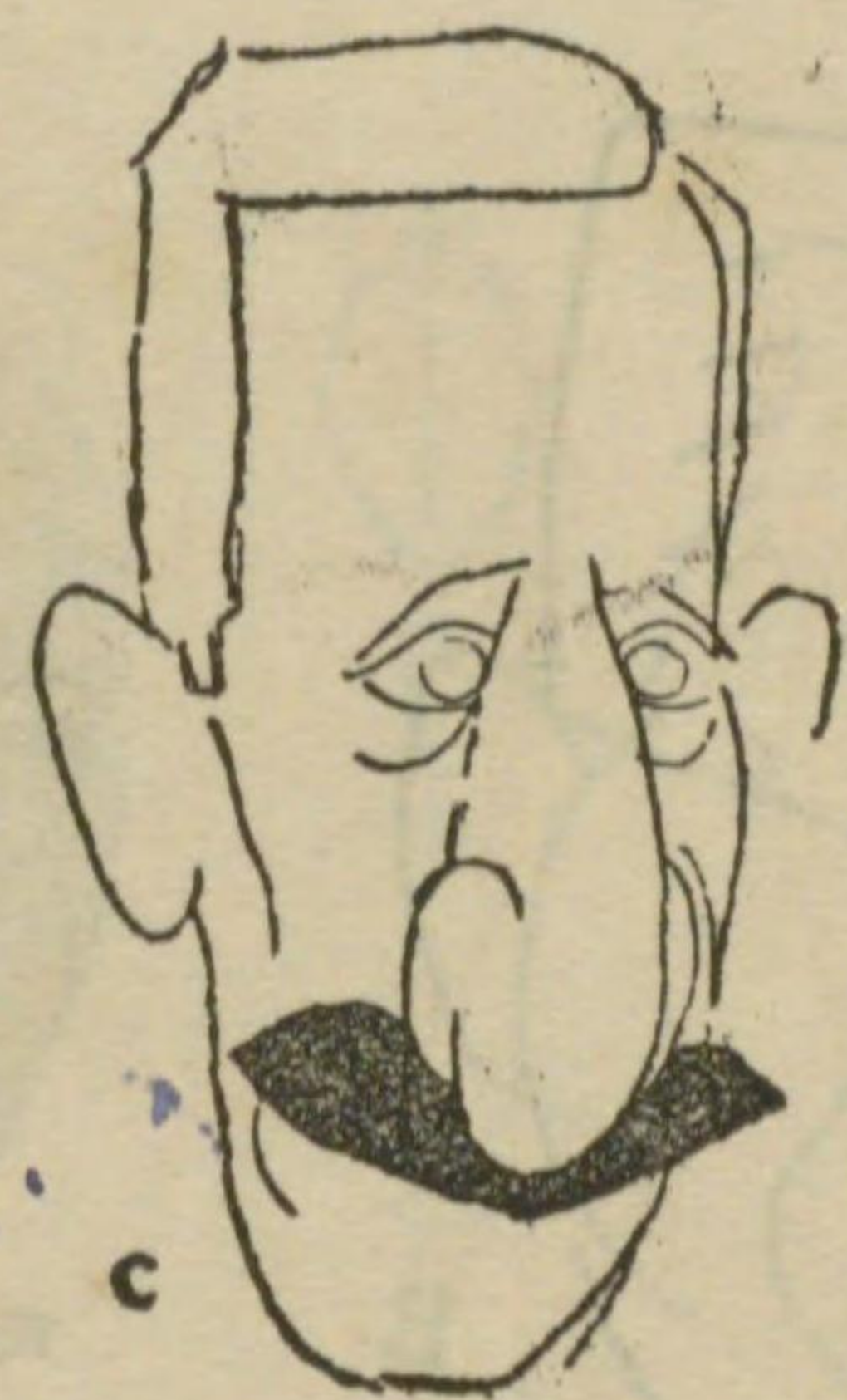
仙石 貢氏

かみなりおやちの仙石さんの鼻は烏天狗鼻の型です。和船の底の方を前へ向けて顔へ取付けたといふ形が烏天狗鼻であります。

口はお椀を二つ重ねて突出した氣持ち。顔の輪廓は楕圓型ですが兩の頬骨が随分張り出てゐます。(D畫)

な黒い髭があります。これが可成り氏の顔を印象づけます。小鼻からまき出して裾は巾が廣くなつてゐる鼻唇線があります。随分溝の深い鼻唇線です。

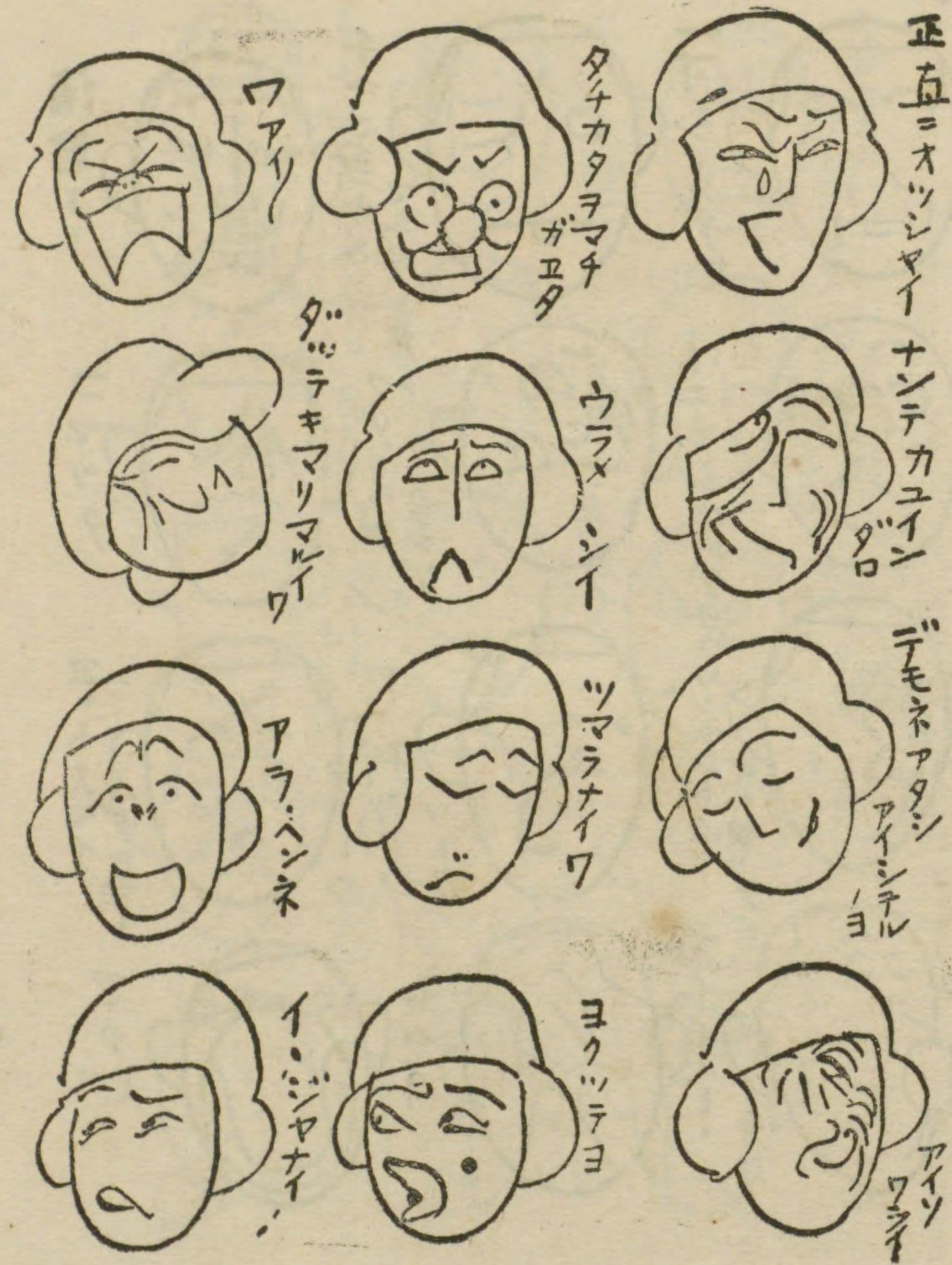
これも見逃してはなりません。眼は鼻の根元の兩側についてゐて、——も



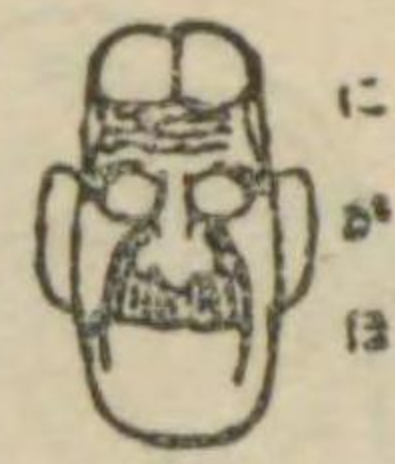
粕谷 氏

粕谷前議長

氏の鼻は大鼻の型であります。氏に逢ふとまづ鼻が目につきます。顔の道具の中でこの鼻が顔の道具を統裁して行くところ。丁度議長が議員を統裁して行くやうであります。しかし氏の議員に對する議長振りは慎重で控へ氣味であります。この鼻が外の道具に對する態度は思ひ切つて獨裁専制主義であります。



顔の表情



話も大分續いたから

さぞかし讀者も



された

らうと思ひ顔のことはこの邊で



らうと思ひましたがど

ろしても大事な事が一つ残つて

居ましたからもう一回書かせて

貰ひます。それは顔の

の事です。



百面相

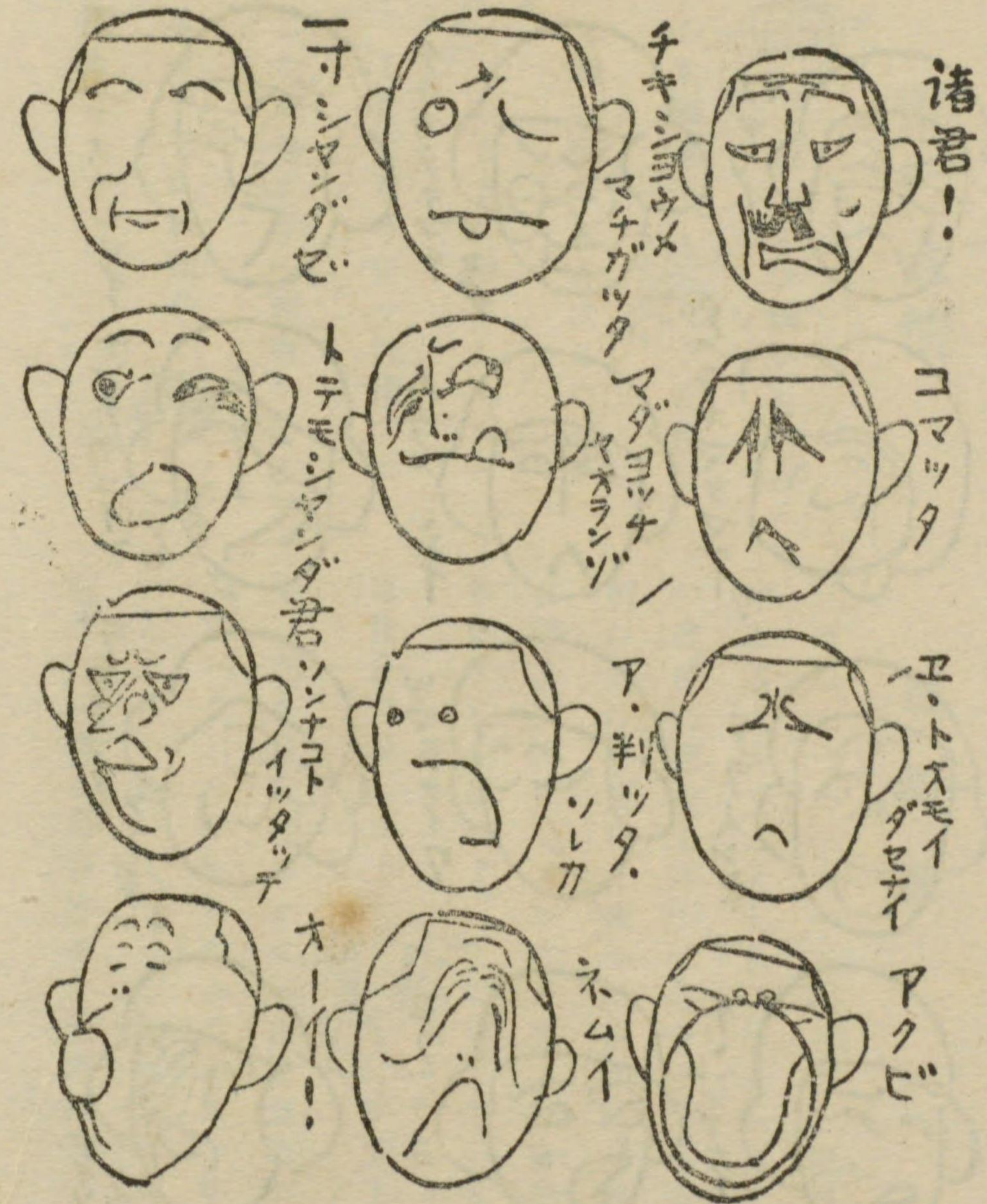
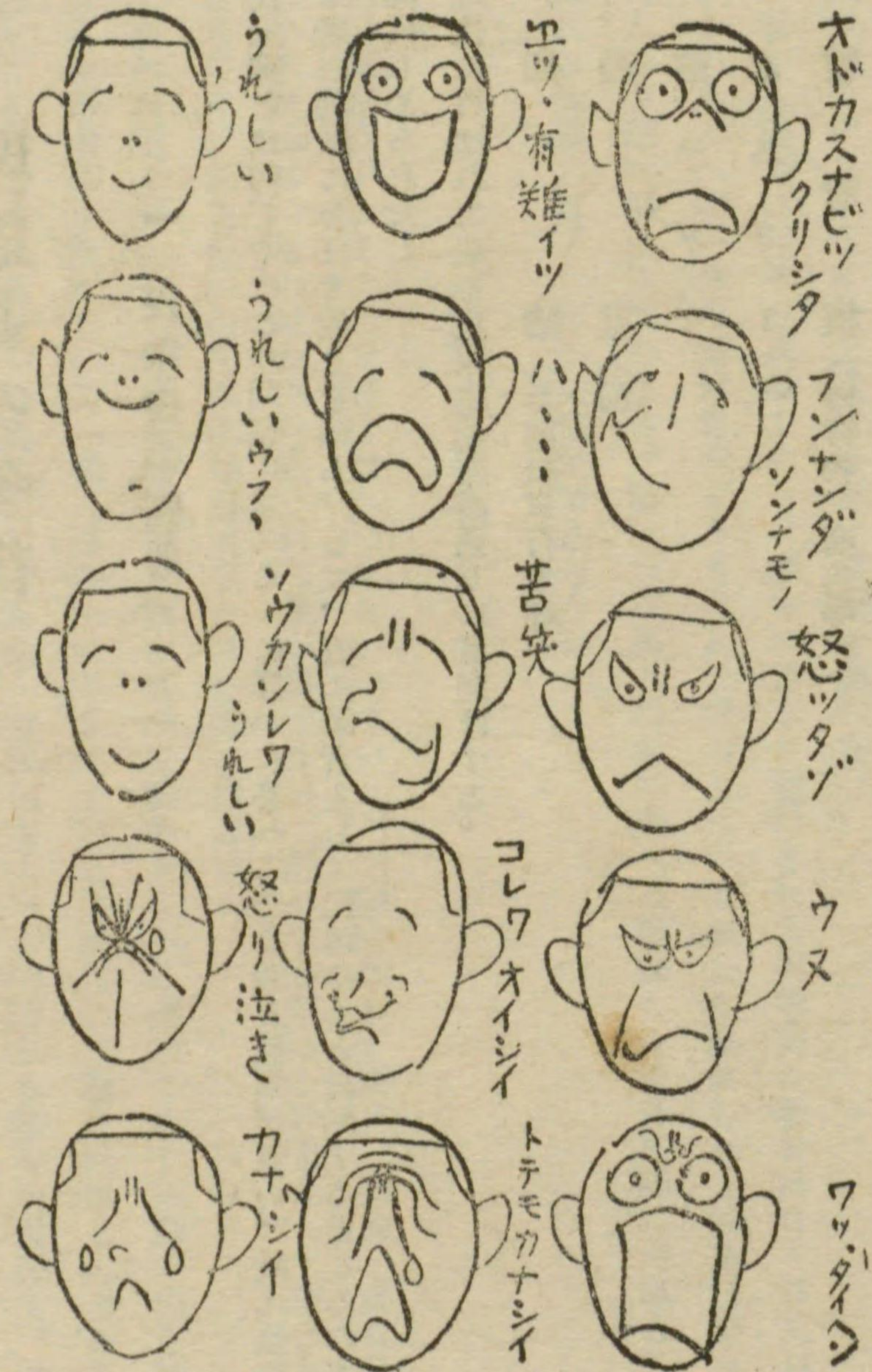
これについては一々描き方を説明してゐるのもくどくしいからいろく

の表情の標本を作つて置きますから入用のものを探して使つて下さい。標本は素人方に使ひ易いやうなるだけ簡単な線にして置きます。この中に無いものは自分で鏡に向つて



ご覽なさ

い。但し、人の居るところだと氣狂ひと間違へられますから成る丈け人の居ないところだね。イヤ、こんな事まで教へねばならぬとは傳授は骨が折れる。



民衆畫の今昔

一 民衆畫の區別

民衆畫とは何ぞや。この問題に就てこゝに詳かに答へて居る暇と紙幅が無い。故に無條件に筆者の判断にお任せ置きを願ふ。して、直に筆者をして記述せんと目的するところのものに向はしめられたし。

現代に行はれて居る民衆畫を左の通りに區別けする。

挿 繪 (新聞紙單行本等)

漫 畫 (同)

繪 ハ ガ キ

ポ ス タ ー

繪 看 板 (興行物、商店等)

民衆畫の中に展覽會や床の間の所謂木畫は入らないのかといふ質問があるかも知れない。

入るものもあり入らないものもある。たゞ民衆と接觸を保つ密度の點に於て次の事實は本畫を民衆畫とすることに於て遺憾の多い證明を與へる。

帝展の入場者は毎年廿萬餘である。然るに日本で發行される大新聞の紙數は日々百萬以上である。たとへば一枚の新聞を少くとも三人で閱るとしても紙上に載せられる挿畫は日々三百萬人餘の眼に觸れる譯である。日々三百萬人の眼に訴へる繪畫と一箇月に約二十萬人の眼に觸れる繪畫と扱どつちが民衆的であらうか。

二 民衆畫の由來

徳川幕府の中頃まで民衆畫は無かつたといつていい。王朝時代から鎌倉、桃山、繪卷物等について見るに、それは民衆は描かれて無い事はない。然し乍ら單なる背景として使はれて居るまで、無生物の山川草木牆壁瓦石と何の擇ぶ處は無い。

まれに表情を與へらるればそれは主要人物の英雄を褒めたゞへる嘆嗟であり英雄の力を出する爲の恐怖の表情だ。一二『職人繪卷』のやうな庶民を主題として做されたものもある。これとても彼等の生活を一の興味としてお抱へ畫家が主人へ手柄顔なる珍奇の贈物だ。庶民の深い研究ではない。

徳川幕府の中頃に町人が蔓延した。ひいて庶民階級も眼を開けかけた。茲に庶民階級を對照とする浮世繪が起源する。浮世繪の繪變紙は當時の庶民階級の風俗好尚出來事等を紹介する點に於て今の繪葉書や寫眞の役を勤めた。彼等の意氣や不平や力を現す事に於ては今の新聞の役を勤めた。大奥の華奢を諷刺した『朝妻船』の畫家は遠島を命ぜられた話や（これは英一蝶と傳へらるゝが一蝶の遠島は『朝妻船』の爲めではない）饑饉地震の後には必ず筆者不明の數多い諷刺畫が落首と相並んで世間に擴まつた事や、何れも繪畫が卓然として庶民の肩を持ち出した例である。

維新になる。『繪などは無用の贅澤品だ。』さういはれて雅邦さんなどは海軍省の製圖をやつてる間に、なほ生命を持續して來たのが浮世繪の繪草紙である。民衆畫は贅澤品でない。必需品であるからだ。上野彰義隊の戦争、西郷征伐、西南戦争それ等を畫家の想像を通じて市人に紹介したものは繪草紙である。月岡芳年がその雄である。

三 繪草紙——新聞繪

芳年は在來の浮世繪の傳統にその時代に輸入された西洋畫を巧に取入れた第一人者だ。寫生によつて發見した人物の躍動した姿態。在來の型に於ては常に横腹を示して描かれねばな

らぬ刀の刀身を彼は眞向きに一本の線に描いた。風景に遠近法が使用された。これ等の應用的創出は當時無意識に歐化の潮流に漂蕩せられつゝある民衆の心を、如何に鋭敏に刺戟したか。繪草紙屋の店頭は丁度今の新聞社が突發事件の寫眞を貼出した場合のやうに群集によつて黒山のようであつたといふ。

新聞に繪畫が載り寫眞が載り新聞が繪草紙の役目を奪ふやうになつた。繪草紙が民衆に對する實用的の責任を解除され、單なる玩弄物として遺されたのは日露戰役の終りと思ふ。戰爭中にはなほ右田年英等の戦争畫が人氣を呼んでゐた。筆者は氏の筆の日本海軍士官が敵の水雷艇に躍り入り日本刀を揮つて赤髯の露兵を海中へ蹴込む一枚を眺めた時の心の躍躍を今だに忘れる事は出來ない。

四 新聞の挿畫

明治八年四月に東京に『繪入新聞』が生れた。

それまでの新聞は政論の爲めの新聞である。讀者の興味を顧慮する事は寧ろ新聞の不名譽と考へてゐた。繪入新聞に於て漸く挿畫小説を加へた。新聞の挿畫に於ても最初に覇を唱へたのは芳年である。その小説はやはり梅曆式人情本の套襲ではあつたが芳年の寫生に胚胎す

る活氣ある挿畫は筋を現實に蘇らして滿都の士女の感情に喰入つた。その繪は下品で肉感に墮してゐた。それだけ力強くもあつた。

明治二十三年國會開戦前まで藩閥によつて言論の非常な壓迫があつた。志士にして首都を放逐せらるゝもあり、普通の政論は忽ちに禁止の厄に遇ふ恐れがあつた。彼等のうちにて筆の滑かなるものは小説に眼をつけ出した。小説に事よせ民權自由の主義を謳はんためである。創案のものあり翻譯のものもある。この『主義ある小説』にも挿畫が入られた。それには絹もの着物に仙臺平の袴をつけ、赤い裏のマントを着て靴を穿いた、青年志士の好男子と、頭を束髪に結ひ花を挿しシャツを着て洋書と洋傘を携へた美少婦とが常に點出せられた。それは當時の若い男女の憧憬の的となつた。繪には細い毛筆をもつて西洋木版畫の影響を受けたベンの線のような陰影がつけられた。

これ等の繪にたづさはつて、芳年の弟子その他の無名畫家が湖水の鳩のやうに一寸頭を出しかけては又消えた。その中から羽ばたきして飛び上つた鴻の鳥が二羽ある。水野年方と尾形月耕である。

年方は芳年の弟子、明治二十年頃より『やまと新聞』に執筆した。月耕も同時代に新聞挿畫の他の一方の大將であつた。

新聞小説が主張ある讀ものより時代の感情を映發する文學に方向を換へるに従ひ、挿畫も明治の文學史と交渉を保つ事になる。

五 硯友社派小説の口繪

明治二十年尾崎紅葉が主盟となり西鶴に指示を得た所謂、硯友社派の寫實小説を興した。この前後にはなほ徳富蘇峰の『國民の友』を壘據とする清新なる翻譯小説の一派あり、その他惑星の巨豪が四五あれども挿畫の隆盛に與つて力あるのは硯友社派の作物である。彼等は文に人情を穿ち艶麗哀愁の美を擅まにせんと欲するのみならず亦繪によつて讀者への側面攻撃を企てた。意旨を帶した武内桂舟、梶田半古、年方、月耕、年英等が一時代を作つた。

彼等の繪は當時の時世粧、即ち主として花柳界の流行を忠實に描寫しつゝ一方、小説中の情緒を表現した。これが彼等の美を盛る器物であつた。桂舟式の藝者、年方式の藝者等は世上に於ても美人の典型とされた。特記すべきは繪草紙の廢棄に伴ひ將に殉死せんとした木版刷がこれ等の小説の口繪の爲めに再び復活された事である。カラ刷などといふ昔の専門的の刷方が再びこれ等に應用された。小説の口繪が民衆畫の中堅であつたといつていい。

明治二十二年小説雜誌『新小説』が生れた、これに勵まされ二三、文藝雜誌が出たが、その

巻頭は何れも右の畫家等の木版刷で飾られた。

六 新寫實主義の挿畫とお伽繪

明治二十七年に、清國と戦端を拓いた。明治三十年に紅葉が『金色夜叉』を書いて硯友社派は終りを遂げた。次の時代に挿畫に油を注いだものは小杉天外、小栗風葉等を主とする新寫實小説である。硯友社派の小説が花柳界的ロマンチックの匂ひを主調とするに對し、これは性格描寫、社會描寫に筆を進める自然主義前驅の役を承るものであつた。當時社會に激増した男女の學生が取材に選ばれた。作風に感化を受けて挿畫も様を變へた。そはいよゝ客觀的の寫生に力を注ぎ、そを通して作中の情景を、自然に照合して現はした。

開放された新思想に青春の血を燃やす女學生と秀才、その間に清新なる戀愛の綾を描きかけた。世上の青年達はわが周圍を描かれた如き親しみをそれ等の繪に覺え、朝の新聞を待ち兼ねた。梶田半古がこの試みに旗幟を新にした。新しく鍋木清方が擡頭した。風葉の『青春』天外の『魔風戀風』の挿畫が代表作。

報知新聞に村井弦齋が平俗なる理想小説を書き家庭向きの人氣を蒐めた。年方がこの繪に專注した。年方が創出する風姿によつて作中の人物が特質附けられる程その繪は深く世人の

心に打込んだ。硯友社派の巖谷小波が二十四年以後お伽文學を開拓した。桂舟これに加増して遂にお伽繪の専門家となつた。

七 自然主義小説の挿畫と低徊小説の挿畫

日露戦争が明治三十七年である。三十八年に獨歩が『獨歩集』を出す。花袋が自然主義に眼覺め出す。三十九年に藤村が『破戒』を出す。

此時まで作家の思想に追従し來り得た挿畫畫家等も自然主義の解剖的、否定的に協調して深酷へ向つて一足飛びに筆を突つ込む能力を缺いて居た。作家程に挿畫畫家は傳統的美を捨去る決心はつかなかつた。或は自然主義の小説には繪の説明を却て煩はしとするものがあつたかも知れぬ。少くとも今までは某作家には某畫家の繪、某畫家の繪は必ず某作家の作りと恰も鴛鴦の如くあつたものがこの期に及び悉く亂れた。

彼等の小説はたとへ繪を添へても必ずしも繪の權威を認めての事ではなかつた。刊行物が通俗な讀者へ對し申譯ばかりに却つて小説家を説得して入れさせるやうな譯合であつた。畫家としては前の清方に加へて池田輝方、嵯崎英朋等があつたが畫風は小説の趣旨に添ふものではなかつた。小説は小説、畫家は畫家。畫家は唯自ら快しとする美男美女を作中の人物に

假託して描くのみであつた。然し乍ら彼等の美男美女は小説の作そのものとは關係はなかつたかも知れぬ、さり乍ら時代の民衆の好惡を反映してゐぬとは云ひ切れない。

自然主義の全盛より末期へかけて名取春仙が輕快な略筆の筆觸をもつて作中の情景を象徴して挿畫を描いた。常套を破つて一寸人目を新にした。

獨歩が小杉未醒を發見し、漱石がその低徊小説に於て中村不折の才想を引出した。これは漫畫の項目中に説明する。

八 現代通俗小説の挿畫

自然主義倒れ、菊池寛、久米正雄を主とする高級通俗小説が行はれるやうになつた。小説挿畫は息を吹き返した。彼等の小説が描寫解剖の手段に於て泰西文藝の便法を拉致し、然も現代民衆の傳統的感情を損なふ事なく新味の興奮と興味を讀者に與ふる流風はどこまでもロマンチックな美より逃るゝを欲せぬ挿畫畫家の系統的本流に歩調を揃へ易からしめた。伊東深水、田中良、太田三郎、細木原青起、森田久なぞが在來民衆に培はれた浮世繪の傳統の上に洋風の明快なる描法を加味し、或は逆に洋風挿畫の上にも浮世繪の了解を導き入れ、時代の好尚に適當なバランスを取つてゐる。講談ものゝ挿繪もないがしろには出來ない。これに

は右田年英、英朋等浮世繪の古格を存する人々が執筆してゐる。

鈴木三重吉がお伽話の改革を企てた。お伽話は童話と名前をかへた。童話の挿畫はほとんど桂舟式を脱し洋風のものとなつた。

九 漫畫の由來

藤原時代末期の鳥羽僧正覺猷をもつて本朝漫畫の鼻祖とする。僧正は天臺の座主の同名の人とよく誤まれる程の僧侶。曾て「辻風の吹たるに米の俵をおほく吹上たるが塵芥の如く空に上るを大童子法師ばら走るより取りとどめんとしたるを様々におもしろく筆ふるひてかかれける——」と古今著聞集に書いてある。それを院に見せたところが大變興ぜられてその心を問はれた。すると僧正は、近頃の供米は途中で悪い事をするものがあつて中は糠糟ばかりだ。それで風に吹上られるのだと申上げた。それから供米が嚴重になつた。これは正しく今日の諷刺畫である。次ぎの漫畫の命脈の結節が土佐光長である。彼の繪卷ものは花見の宴の歡樂の陰に地獄變相の餓鬼の相を認めるといふ佛教の見地から見た現實生活の摘發である。土佐派のうちには畫家自身の生活の滑稽を描いた自叙傳式の繪卷物もある。

次ぎの結節が大津繪である。

天和から寛永頃へかけ大津邊で一枚繪を賣つてゐた。始めは佛の像だつたが、だん／＼民衆化して槍持、若衆、藤娘など時代の風俗を飄逸に單純化したものとなつた。或は當時の筆者は眞面目に略寫したのかも知れぬが今人の眼には一種の興に漫じたものに見える。これ等今日東京見物の地方人がみやげに寫眞帖エハガキを買つて歸ると同じやうに常時京へ上つた地方人が都風俗のみやげとして買つて行つたものらしい。

徳川幕府になつて人心の餘悠倦怠につれ戲畫を試みるものが出來た。

大阪、京都が一方は富の勃興、一方は御所の在所の傘の下といふ空氣によつて、江戸の嚴しいしつけのお膝元よりは流行が早く醸された。出來たものを鳥羽繪と總稱した。繪本が多い。中で大阪の人、耳鳥齋は素人ではあるが、大まかで然も要を得た筆で當時の兩都の民衆の生活を愉快に活寫した。肉慾の減退を補はんと腐心する金持ちの隠居。催し會の表裏等。觀察に擷んだものがある。商都の民衆の現世的樂天主義が出て居る。

文政に死んだ鯉形蕙齋の『職人畫繪卷』(前に書いた職人繪卷に非ず)は、庶民の生活を描いて氣品あり、然も清新な漫畫を産んだ。畫家が、民衆に藝術的感興を覺えて來た證據となる。

寛政の葛飾北齋に『北齋漫畫』の著がある。漫畫と銘打つたのはこの人が始めてであらう。

可成り多く庶民の生活状態を活潑に描いた。

安政の浮田一蕙。この人は有職故實に通じた大和繪師である。内親王和子が幕府家茂に降嫁の儀につき慨する處あり『狐怪草紙』を作り繪中狐妖を操つて當時の亡狀を諷刺した。眞剣な政治漫畫家である。入獄中に死んだ。漫畫家の下獄はこの人が最初である。東洲齋寫樂、この人は役者の似顔の特徴描寫をやつた。今の西洋の似顔畫と同じ行き方だ。歐人によつて後年その價値を發見された。それから日本人が騒ぎ出した。

英一蝶の事は前に書いた。それから落首と並んで民衆の口舌となり時々落首に比適する諷刺畫を發表した無名漫畫家の事も前に書いた。

遂に河鍋曉齋となる。

一〇 狂畫家曉齋

曉齋は天保に生れ明治二十二年まで生きてゐた。本畫も才筆であつたが狂齋と號し狂畫も描いた。一蝶に範を採るもじり畫が多い。たとへば達磨が遊蕩して娼婦に耳の垢を取らして居る所のやうなものである。くだらぬ洒落のやうでもあるが一方から觀れば元來達磨の如きは狩野派の畫家等が頗る勿體振つていやが上にも神聖を表はすに腐心した畫材である。それ

を思ひの外なる遊蕩の圖は從來の舊套で虚飾な形式を破壊する反因習精神に暗々裏に興味づけられたと云へぬ事は無い。然もそれ等の畫を熱狂的に歓迎した民衆は既に幕府政府の實なき權柄を覆し終りなほ反抗の餘焰收まらぬ時代の人々である事を思ひ合せば、一層この解釋は確實性を帯びて来る。

狂齋は大酒家であつた。酒興の上の作の失敗から獄に入れられた。日本漫畫家の下獄の第一人目である。

一一 團々珍聞と田口米作

明治十年團々珍聞といふ薄い厚さの漫畫雜誌が生れた。もつともその前に横濱にローマ字のパックがあり TOBAYE といふ似よりの漫畫雜誌があつたが着物の着こなし髪結び様如何にも日本をエキゾチックに視てゐる。外人の筆のすさびらしい。團々珍聞を生むよすがにはなつたかも知れぬが、一般の日本民衆に交渉は無かつた。

珍聞の評価を高からしめたのは田口米作といふ漫畫家である。ペンを用ひ細線の陰影をつけた寫生式の畫風である。犬を民権にしたり紳士を鯨に見立てたり通俗な擬人法を慣用するところ全く倫敦のパンチの感化を露呈して居る。間々日本在來の地口に墮する事もある。

然し乍ら當時の民衆にはペン畫は珍らしくもあり、且紙上に寫眞の載らぬ時代に凹凸をつけて浮出した畫中の似顔は民衆の驚異に値した。驚異に酬ゆるに喝采を以てした民衆と呼びつ呼ばれつ或は彼等に指示を與へ、或は彼等の言はんと欲する處のものを代辯しかくて一種の勢力を形造つた。

次いで『めざまし草』といふのが出來た。珍聞より諷意も無邪氣と簡素にて日本人の一面の淡白な國民性に親しき漫畫を發表した。

小林清親が描いて居る。

一二 二六新聞と小林清親

清親はその以前には可成り洋風を取り入れた水彩畫のやうな東京の風景木版畫を創作してゐる。漸く漫畫に親しんで來て明治二十六年二六新聞が發刊されると之に入社して警世の陣を張つた。

清親の諷刺畫は描法に鳥羽繪や大津繪の丸味と流暢がある。趣向をこらす上に於ても寛容があり遊戯的に主觀づける好みがあつた。それでゐてどこかに冷かさはあつた。然し辛辣骨を刺すといふ譯には行かなかつた。民衆の心の中に潜入し來てゐる舊幕時代の落首の興味。

それが彼の畫によつてふくよかに抱へ出された。彼の畫を觀て民衆は激昂させられなかつた。だが好笑した。或は微笑した。
畫風の飄逸に似合はず彼のがある畫が當局の忌諱に觸れた。彼は漫畫家の入獄の第三番目の人となつた。

一三 新聞スケッチの先驅者久保田米僊

刊行物上のスケッチ畫、及び俳畫、コマ畫等を漫畫の項目中に述べるのは如何との論もあるかも知れぬが、これも矢張り筆者の獨斷を許して頂き度し。相變らずそれを辯明する紙幅と時間が無い故に。

久保田米僊は鈴木百年の門より出て當時既に京都畫界刷新派の先驅であつた。本畫家である。感ずる所があつて國民新聞に入り二十七年日清戰役に從軍して觀戰のスケッチを紙上に發表した。出來事を報道する新聞スケッチの先驅者である。畫風は邦畫のスタイルに戰地の見聞を嵌め込み、毛筆で描いた。不自由な規格を存する邦畫の手法と描かんとする生々しき戰爭場裏の風物と調和せず煩ひなくして觀者を筆者の畫境に如同せしめ得る事は六かしかつた。然し寫眞の無い當時の新聞紙上には唯一の眼に訴へる戰地の報道であつた。そして本畫

筋の氣品が添うてゐたので高級識者の間に賞玩された。

一四 ホトトギス派の俳畫と中村不折

明治三十一年俳句雜誌『ほととぎす』が日本派の俳人によつて創刊された。

新俳句の提唱に伴ひ新しき俳句の創出をも獎勵した。中村不折、下村爲山などが出た。伊太利から入つたクラシカルな鉛筆畫の寫生法に雪舟以後古狩野の骨法を添加した。滿幅に漲る旨趣は飽までも客觀的寫生を基調とする新俳句の俳趣である。洋服を着て一瓢を肩にした新しき文人墨客が古寺の梅を訪ねる團なぞが頁に現れた。一般には大膽な新奇な思ひつきに見えた。

三十八年『ほととぎす』に夏目漱石の『吾輩は猫である』が出た。小説として破格である。その單行本に不折が挿畫を描いた。作の文筋である主觀的寫生文の奇趣が意地強く又飄逸に畫に現れてゐた。性格描寫も新しき俳味を通じて出てゐた。この派の加擔者である高踏的中産階級の人々は忽ち不折に傾倒した。不折は洋行費を溜める事が出來た。

一五 明星派の詩畫と藤島武二

明治三十三年に與謝野鐵幹等によつて詩歌雜誌『明星』が生れた。詩歌に現代式のロマンチックな夢を大膽に盛らうとする企てである。誘はれてこの派の詩畫家等が現れた。藤島武二が最も美しいものを書いた。それは西洋心酔の美しい夢である。挿畫といひ狀、實は豊かな感覺の豎琴を用ひて憧憬の天國を裝飾的に節奏し出さんとする立派な壁畫であつた。櫻の花、美少女、鸚鵡、星、草等が彼の繪を彩つた。

武二の繪が超越的、圖案的、藝術至上主義的といひ得るならば『新聲』に現はれた一條成美の繪は同じく圖案的で新詩味を帶べるものながらに現實的、切迫的、生活本意的のものといへやう。彼は當時の男女學生間の情熱を性慾と交錯する界まで挑發的の姿態センチメンタルな線、罪を想はする黒い塊等を用ひ魅力を帶ばして書いた。兩者共當時の若い人々の情熱の焦慮にゆかしき慰安を與へた。このロマンチック及びセンチメンタルの詩畫の挿畫の傾向はこの後繪葉書の流行の上に乗移つて仕舞つた。故に簡單にこゝで繪葉書の變遷を舒して仕舞ひ度い。が、その前に、前述の挿畫の沿革を説いた場合に、忘れてゐた項目を、こゝで補はせて貰ふことにする。

一六 挿畫の沿革の補足

前の挿畫の沿革の項目中硯友社時代に於て富岡永洗の名を抜かした。永洗は年方、桂舟と並び別に永洗型の美人を創造した畫匠である。氣品に於て前二者に劣るが肉感的艶妖なる魅力は氏の筆がひとり擅にするところのものであつた。花柳界に於ても下流の方面が憧憬する仇なところ、意氣なところ、伊達なところ、さういつたものを代つて遺憾なく形に現した。當時勃興の氣運を得た新派劇——花柳界情話——それ等と民衆の上に同じ種類の連絡を保つやうに思はれる。小説の傾向か他に向つてもこの系統の畫派は依然として時代思想に動搖されず所謂下層社會の趣味と結び付き行き、取材は現代に採りつゝ心は昔ながらの男の意地、女の達引、仇打氣質等を讚美する新講談の挿畫となり一つの世界を圍んで來てゐる。永洗の弟子の洗屋、この人の繪によつて都新聞とその新講談とがどの位讀者の心を強く引き付けた事であらう。現代の講談を中心とする雑誌の挿畫も艶ものは亦この畫派の掌握するところである。

も一つこゝで思ひ出したのは新寫實小説の後期あたりからだと思ふ、渡邊審也が洋畫の筆で挿畫を書き出した。

一七 繪葉書の初期と太田三郎

政府が繪葉書を公許したのは明治三十三年である。

然し外國の繪葉書の流行が普佛戰爭に起因する如く、日本の繪葉書も日露戰爭によつて俄に隆盛をきたした。政府は出征軍人を犒ふべく慰問袋の中に收める慰問エハガキを製するのみならず、戦捷を記銘する記念繪ハガキを發賣した。發行部数は忽ちにして盡した。強ひて手に入れんとして人々は定價の數倍乃至數十倍を投與した。繪葉書の仲介業が出來た。繪葉書に書畫骨董のような投機的興味が附與された。

官製繪ハガキの功利的流行が他の種の繪ハガキにも氾濫して、こゝに繪ハガキ趣味の普及となつた。

繪ハガキ圖案に己れを試みる事が當時新進氣鋭の畫學生等に取つて、それは高名の捷徑であり、又才氣を奔出させる手頃な舞臺でもあつた。その傾向を見て取り専門の繪ハガキ雜誌が發行された。専門ならずとも文藝雜誌に新様の繪ハガキを添附する事は編輯上必須の事業の一つだつた。

當時の繪畫的繪ハガキは畫面の圖案化如何が努力の中心點だつた。民衆の風俗を寫すにも非ず人情思潮を穿つにも非ず、たゞ西洋の雜誌挿畫の漫畫的圖案化の影響を受けて青年の客氣に任せて奇抜に面白く勝手氣儘に人の氣をそゝるものであつた。中學生時代に夢の如く胸

に鬱抱する生々しきロマンテイク、センチメンタリズム、これが一方の圖案化の主潮をなした。一方の主潮は同じく中學生好みの冒險的誇大妄想傾向、それを繪に導いて奇抜な姿態や不良少年的専恣放逸な色線の圖案化となつた。およそ總てがこの間に彷徨するものであつた。前者を代表するものが太田三郎であつた。太田三郎はハガキ文學に據つて一團のグルウブを指揮した。橋口五葉、山村耕花なども一方の雄將だつた。

後者は投書畫家の傾向にその多くがあつた。當時エハガキ懸賞には百圓が懸けられた。當時の百圓は大金である。山田清などいふ繪ハガキ的天才がこれを得た。

日本畫洋畫を専攻して居る所謂本畫家にして、繪ハガキに筆を染めるものも多かつた。それには橋口五葉、山村耕花、中村不折、和田三造、平福百穂、石井柏亭、結城素明等があつた。

齋藤松洲が俳畫を繪ハガキに調和させた。

明治四十年以後には繪葉書熱は下火となつた。然し熱狂は無くも今度は民衆の質實に要求する程度に應じて需要は實質的に固まつて來た。

一八 繪ハガキ第二期と竹久夢二と宮崎與平

第二期は夢二とヨヘイの時代である。

二人は前期の空想的圖案化からみて、繪葉書をより實際生活に引き近づけた。當時の青年男女の心的欲求を充たすのみならずある點まで外形生活をも反映させた。春の野に蝶形のリボンの女學生をマントで覆ふ男學生。

残る電燈にコツブの底の葡萄酒の滓を見て身の上をすゝり泣くカフェの女。

眼隈を彩りまつ毛が掃毛のやうに長い女の眼。

誇張して丸みと肉慾を帯びた若い女の大きい手。

短帽を自暴自棄的に冠り大きい破れ靴をさすらひ人のやうに穿いた美男の學生。

兩者とも甘さが基調だ。そしてヨヘイに於ては俳味を帯びた飄逸が甘さにアルカリ性を帯びしめる。夢二に於ては變態性慾的なセンチメンタルが甘さを酸性にする。

夢二式ヨヘイ式の合言葉を若い人の間に生む程彼等の感情を支配した。

ヨヘイは早く死んだ。夢二はその後松井須磨子のカチュシヤの唄、さすらひの唄等を繪ハガキにしてある種の民衆と氣息を通じて來た。

馬城といふ人の繪がある。名字は忘れた。この人は勤め人階級の想像し、或は體驗する低級な人間味、生活味を判り易い描法で穿つて一種の勢力がある。寢床に新聞を讀んで居る妻

に亭主が焔爐を漏いて飯仕度をしてやる圖や、新世帯の買物に持ち來れぬ程品物を亭主に抱へさせて美裝した妻君は超然として行く。凡てこの如きものではあるが確に民衆の通俗味を反映してゐるに違ひない。

また、見逃すべからざるは三宅克己、大下藤次郎、丸山晚霞等水彩畫家等の水彩畫の繪ハガキの普及である。若き民衆は是等により有産階級の人々が床の間にて玩味賞讃する意味のものを容易く机上にもたらして渴きを癒やす事が出來た。手本にして模寫したりした。民衆に洋畫に對する親しみを與へた事は展覽會などより餘程この方が有力だつたと思ふ。

一九 現代の「ハガキ」とうひくしい神祕主義的

夢二はその後挿繪を入れて童謡を書いたりなぞした。幾分神祕的の香を帯びたかと思ふが矢張り歌麿の感化と象徴主義の泰西の挿畫との間に彷徨してゐるやうである。そして骨がいくらか固くなつて來たかに想はせる。繪ハガキの生命は生々しいところ、甘いところ奇抜なところがいのちだ。夢二は繪ハガキ畫家として大分熟し過ぎた。

現代に於ては民衆も更に眞實を求むるものは實物映寫の繪ハガキ寫真に移り、更に洋風新奇の夢を追ふものは輸入の外國繪ハガキに直接する。繪ハガキ畫家の憧憬、空想を通じ洋風

のハイカラな感じを享けんとする迂遠な方法は今必要としなくなった。僅に生々しい心持ちを命として描く若い畫家等が二三現れてゐる。加藤まさ等を等である。短詩を添へて童話の中に變遷するやうな神祕。中學生が夢を見る如き可憐な神祕に奉仕してゐる。神祕によつて繪葉書が命脈を保つところに現代の民衆を讀まねばならぬ。尙一言添へて置き度いのは昔の繪草紙屋の役目を、今の繪ハガキ屋が民衆の上に勤めて來て居るといふ事である。

二〇 東京バツク時代と北澤樂天

繪ハガキの沿革を略述し終つた。再び漫畫の沿革に戻る。

東京バツクが明治三十八年に創刊された。

その以前より北澤樂天は時事新報にて時事諷刺漫畫を執筆し來つたが、この時バツクの指揮を執つた。

バツクが有力になつたのはその前年より起つた日露戦争のためである。

當時戦地の寫眞といふものが製版術の幼稚から紙上に直接載らなかつた。畫家がコナ板といふ石版に模寫して僅に載る程度のものであつた。それも随分如何はしいものであつた。

戦争熱に火の如く燃えた民衆の心を眼を通して呼應する何物も無かつた。

バツクがそれを勤めた。覺束ない寫眞引うつしの線よりも直に民衆の心に入つて彼等の抱く敵愾心、それ等を映發してやる方がどの位力強かつたか知れない。

バツクはたとへ措法は幼稚であつたにしろ、あらゆる智術を傾けて彼等の慾望を充した。

漫畫であるから表現に辛辨な皮肉があり、痛快な誇張がある。きび／＼と民衆の心を活かした。畫風は矢張りパンチ式のものであつた。それに日本人向きに略化と筆觸の輕快と洒脱を與へる事に氣をつけた。

執筆者には山本鼎、川端龍子、石井鶴三、坂本繁二郎等後年所謂本畫に入つた人々がゐた。

この人々等には後年を豫想させる個性的の藝術味はあつたが通俗的一本槍に民衆の心を捉へて行く技倆は樂天であつた。當時の千圓を得て月々編輯したといふので雑誌の賣行が判る。

漫畫の色刷りが日本では珍らしいので民衆を可成り刺戟したに違ひない。

明治三十九年排日問題が起つた。國民の對米感情が激騰した。この時がバツクの全盛時代である登載の漫畫につきルウズベルトから抗議を申込んで來た逸話なども出來た。

バツクの繁昌を見て和田三造、橋本邦助等が『東京ハツビー』を出した。滿谷國四郎、鹿子木孟郎等太平洋畫會連の『上等ボンチ』廣瀬勝平、宇和川通諭の『大阪バツク』等續々出

來た。

明治四十五年樂天はパツクを脱れ、樂天パツクを興し經營振はず遂に時事に復歸して時事漫畫を繼續して今日に及んでる。

此際樂天の漫畫に就て一言説明して置く。氏の政治漫畫の根據は矢張り倫敦の「パンチ」にある。氏が實業家肌の世情に通じてる人だけに取扱ひが通俗で誰にも穿ちがよく判る。其處に強味がある。社會漫畫に於ては世人の物慾的弱點を巧に捉へ興味を綴つて行く。米國新聞附録漫畫のトリツクを利用する。金環梨郎凸坊等の常套人物が一時世の人口に膾炙せられたのは人の知るところである。

兎に角明治大正漫畫中興の祖である。

二一 東京漫畫會時代

東京パツクは樂天に脱せられて、しばらくして潰れた。

漫畫雜誌共倒れの由縁は所謂パツク式の扱ひ方が既に人の鼻についたのとも一つは報道的繪畫としては寫眞と製版所の發達に伴ひ新聞が敏速にその任務を足すからだ。

東京パツクは四五年前に他の人によつて又復興した。大阪パツクは繼續して來てる。

明治四十五年に東京朝日新聞に筆者が入社した。元來そのつもりでも無かつたのがいつの間にか漫畫を描くようになった。

藝術家が藝術史上に参加した自分の經過を述べる事は藝術上當然の權利であり、又義務であると思ふがコンペンシヨナルな感情の上からはまことにやりにくい。そして又それを冒してまで押して述べる必要もこの文に於て無さうだ。故に大體なところで免を蒙る。

で、筆者が朝日社に入つてやらうとした事は、スケツチに於ては事實に悖らぬ眞味のユウモアを湧き出さす事。漫畫の説明文を文學的に價値あらしむる事。泰西の新興繪畫の空氣を漫畫の肺を廣くして吸ひ入れる事。本邦の漫畫の傳統を尊重應用する事。漫畫を人間味の上に立たせ、暖かく世態人情を批判する事。漫畫の高級的向上及び普及等である。

當時から今日まで十年餘だ。そしてこの希望が今實現されたか否か、それは讀者の判斷に任せる。

筆者と志を同じうして近藤浩一路、北澤樂天、池部鈞、小川治平、前川千帆、山田みのる、服部亮英、細木原害起、清水對岳坊、在田稠、下川凹天、その他東京の漫畫家を網羅して二十餘名、東京漫畫會を組織した。創立には平福百穂氏も助力して呉れた。東京大阪にて展覽會を八回やつた。地方で十數回やつた。漫畫に描かれた犠牲者を慰めると稱して漫畫祭なる

ものを九回やつた。

雑誌は大正五年平福氏、石井柏亭氏等と「トバエ」といふを出して研究的なもので賣れなかつた。「漫畫」といふのもつぶれた。最近「漫畫の畑」といふを出してつぶれた。十年より東京の主な新聞に漫畫欄が出来た。

上には思つた程伸びなかつたが漫畫は社會へ横に可成り蔓延した。

十年になるとものは一時代を劃す。東京漫畫會風なる一つの型が出来て仕舞つた。これから更に型を破つて漫畫會員は個々に特性を深めて行く必要がある。團體行動はこれで凡て目的を達したとして大正十一年三月下旬第十回漫畫祭を最後に仲よくやり、漫畫祭はこれにて閉ち、東京漫畫會は日本漫畫會と名前を改めた。

二二 議會の似顔畫と平福百穂

日露戰爭時代頃より國民新聞に百穂氏が議會の似顔畫を創始した。洋風スケッチを四條畫風のやはらかい扱ひ方と調和させて大臣議員諸公を紙上に紹介した。動機は議會内は寫眞の撮影を許されぬ點から發したとしても、それから十年あまり、百穂の藝術的努力を新聞史上に拂はせた事は儲けものであつた。現今の議會繪はその系統をひく。

二三 コマ繪の由來と方寸派

明治三十一年ホトトギスが俳畫を新しく流出させた頃、他の雑誌にも頁中に小さい畫を挿入することが始められた。

それは新俳畫の自由、即興、寫生味を持ちつゝ強い俳趣だけを引抜いたやうなものであつた。雑誌社の間でコマ畫と名付けられた。不折、邦助等が先鋒であつた。小川芋錢のコマ畫は文人的の詩趣を帯びてゐた。追々と森田恒友、小杉未醒、石井柏亭、山本鼎、坂本繁二郎、倉田白羊等の諸傑が出た。この濫いコマ畫に對して甘いコマ畫をヨヘイ、夢二、春仙等が描いた。

小杉、森田、石井等の諸傑は後に纏まつて「方寸」といふ高級漫畫雑誌を出した。それは樂天の英米式通俗に對し、獨逸の「ユゲン」佛の「リール」等の深酷と藝術味があつた。現代が漫畫に對しての理解は漫畫はポンチ畫と違ふ。單に駄洒落、滑稽のみを目的とするものでない。こゝまでは進んで來たやうだ。この點は誠に漫畫家の満足する處であるが、翻つて近頃急速度に民衆中に澎湃し來つた階級意識、生活模索等の新傾向と連絡を保つ事に於て漫畫家の自覺と力量に遺憾多い。問題として次の時代に譲らねばならぬ。

近頃泰西の繪畫の新運動は表現派のあるものゝ如き立派な漫畫運動である。これに呼應して日本にも漫畫主義を、藝術上の新運動にもたらす思想的の努力が生れても然るべき事と思ふ。これも次の時代の漫畫家に囑望する。

未醒は不折より脱化して怪奇的な豪傑氣分を和風の豪宕に洋風の微細を加へ描いた。水滸傳、西遊記といったやうなものを取材とするに當儀つた。冒險氣質とロマンチックの青年が愛好した。

以來冒險雜誌の漫畫は彼に範を取るやうになつた。恒友は強い郷土的情趣に獨逸『ユゲン』風の神秘的グロテスクが混つた。柏亭は平明な客觀的寫生に終始した。

二四 高踏的漫畫家と鶴三、千甕

石井鶴三、小川千甕がこの風をひく漫畫コマ畫を描き遂に自己を認得して今日の彼等の漫畫になつた。

鶴三は客觀的描寫を嚴重にする。形の上には軽く見えてゐて然も根本に動かすべからざる個性的の皮肉とユーモアがある。千甕は漫興の主觀的遊戯が人を長閑にする。何れも現代漫畫界の敬愛すべき客將だ。

刺戟の強い世相に迫切した漫畫が雜誌を占領したので、コマ畫はいつか消えて仕舞つた。

二六 ポスターと繪看板

今日進んだものは印象派畫風より後期印象を應用したものである。進んだものは文房具の廣告に多い。

繪看板はペンキの毒々しきは飽きられ水繪式の瀟洒なのが尙ばれるやうになつた。就中活動の看板に於て。

後がき

この一文は大正十一年頃地震前に雜誌の需めに應じて書いたものである。だからそれ以後の民衆畫の進展は書いて無い。今度この本を纏めるにつき改めて校正して見たが遺憾の點が多い。然し乍ら出版の期に急がれてこれを補足してゐる暇が無い。不本意なものではあるがこれだけのものでも記述したものが世間に無いやうだから捨てずにその儘載せる事にした。

考へてみるのにこの文を書いた大正十一年後即ち關東震災後の民衆畫の進展は目ざまし

ものである。

文藝に於ても特に大衆文藝といふ名前のものさへ出来てこれに入れる挿畫には所謂畫家の
大家が筆を競つて染めるといふ傾向になつて來て居る。無産派の藝術とか商業美術などいふ
名も盛に聞え出した。

この一文を讀で筆者自身に既に感概の深いものがある。

新漫畫の描き方(終)



新漫畫の描き方

昭和三年六月五日印刷
昭和三年六月十日發行

著者 岡本一平

發行者 東京市外長崎町一八三二
田口鏡次郎

印刷者 東京市芝區西久保巴町一八
近藤喜七

東京市外長崎町一八三二

發行所 中央美術社

電話大塚一八七九
振替東京四七六八二

定價金壹圓八錢

中央美術社

新井 南畫の描き方	石井 我が水彩	藤祐 彫刻を試る人へ	神原 花鳥畫を描く人へ	鍋之井 風景畫を描く人へ	永瀨 版畫を作る人へ
南宗畫入門の手引さし又た初學者を指導する最完備の講習録として好評噴々手本等百圖	水彩畫家として第一人者である著者が水彩畫に對する實習を教導したもので本書の價値は世に既に定評のあるもの全部改版して出づ	粘土一本のヘラささへあれば何人にも彫刻の出来るものだ工房に弟子を導くやうに實際上の技術を教えてゐる	新しい思想に目ざめて本質的に花鳥畫を創作するには如何にすべき乎、これを主題として述べてある	風景寫生に關して研究所や美術時代を顧みて再び自身が感じたやうな無駄を無からしめやうと懇切に指導する	創作版畫に必要な一切の材料と技術の要領を述べ最も平易に實例を擧げて教示してある
菊判 二五〇頁 玻璃版網版 百餘枚	菊判 二〇〇餘頁 色版單色版 多數	四六判 一五三頁 作例挿畫 多數	四六判 原色版六面 冊一八枚	四六判 原色版別刷 刷込多數	六四判 石版別刷 凹版凸版 數多挿入
¥ 4.50 送 .27	¥ 3.50 送 .27	¥ 2.00 送 .18	¥ 3.00 送 .18	¥ 2.30 送 .18	¥ 2.50 送 .13

中央美術社發行

柳川 虹路 現代日本美術界	大卅 家二 素描選集	關橋 雪本 南畫への道程	不中 折村 藝術解剖學	龍川 子端 畫室の解放	柏石 亭井 畫の科學
現代美術界の鳥瞰圖、卓越せる諸展覽會案内、現日本美術界の事は何でもわかる、諸家の代表作八十餘圖挿入	諸作家の得意の素描、裸婦、風景、靜物、動物等殆んど肉筆さ異なるなし	一通り南畫の技法を知りたる人に東洋藝術の眞髓を會得させる名著	素描研究の教科用として從來ある解剖學の類書の煩を去り製作上最も必要なる要所を理想的に説述した權威書である	著者曰く「若い人達に私の畫生活を打あけて何かと相談相手になる事でもできれば私の畫室を解放して見たのです	技法の沿革、色彩感覺、繪具、畫布、溶油、グニス、畫の耐久、保健等を説く世界の名著
四六判本製 四〇〇頁一色版八十種	四六倍判 本製全部	菊判 二百頁函入 網版凸版 色刷無數	四六判 本製裝幀 三色二面 玻璃版六面	四六判 布製函入 玻璃版網版 十八面	四六判布製 三五〇頁原色一色廿面
¥ 2.20 送 .13	¥ 3.00 送 .18	¥ 3.00 送 .18	¥ 4.50 送 .27	¥ 2.50 送 .18	¥ 3.50 送 .18

中央美術社發行

黒田重太郎著

挿繪原色版四葉。別刷
一色版五十。四六版美裝

油繪技法の變遷

卷上

定價三圓十五錢

送料八十錢

油繪の技巧が如何にして創始せられ、如何にして發達し、如何なる變遷を経て今日に至つたか。これを明らかにする事は現代日本の畫壇に於ける急務である。何故なれば、藝術には國民的傳統があると共に技法的傳統も亦嚴然として存在するからである。從來斯種の著述は、西洋でも餘り完備されたものはない。多くは一局部の研究に止まるか、又は概括的な記述に終始してゐた。著者は此不備を補ふ爲に滯獵多年、一方其實技家としての經驗に照して遂に此一著を成した。技法創始以來、各國各時代を代表する幾十百の大家を拉し來つて、仔細に其作風の根底を解剖すると共に、それが生れた必然の動機たる各自の個性、時代環境の影響にまで及んで居る。従つてそれは、油繪技法を通して文化史とも云ふ事が出来る。恐らく此書出で、はじめて實技家は其個性に適つた技法に通じ得ると共に、鑑賞家はこれに依つて古今名作の眞實な味ひ方に徹し得るであらう。

中央美術社

